

日 時 令和2年12月19日（土）午後2時～
場 所 東海村産業・情報プラザ（アイヴィル）多目的ホール

“原発問題”について，自分たちにできることから考える

－第1回東海村自分ごと化会議－

会 議 録

第1回会議 出席者

■会議参加者

- ・村民 18名（住民基本台帳から無作為抽出した村民で会議参加を希望した方，男性10名・女性8名）
- ・自分ごと化会議 in 松江の参加者 3名※オンライン参加
- ・谷口 武俊氏（東京大学名誉教授，公共政策大学院客員教授）
- ・福嶋 浩彦氏（自分ごと化会議in松江実行委員会・共同代表，中央学院大学教授）
- ・伊藤 伸氏（一般社団法人 構想日本 総括ディレクター）

■その他，出席者

一般社団法人 構想日本

- ・加藤 秀樹氏（一般社団法人 構想日本 代表理事）ほか2名

東海村

- ・村長
- ・副村長
- ・村民生活部長
- ・防災原子力安全課長ほか5名

開 会

○司会（平根） それでは、定刻になりましたので、ただいまから、「“原発問題”について、自分たちにできることから考える―第1回東海村自分ごと化会議―」を開催いたします。

私は、本日、司会を務めさせていただきます、東海村村民生活部防災原子力安全課課長補佐の平根と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

挨 拶

○司会 初めに、本日の会議の主催者として、東海村長からご挨拶申し上げます。

山田村長、よろしくお願いいたします。

○村長 改めて、こんにちは。

今日は、第1回の「自分ごと化会議」ということで、多くの方々にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

コロナ禍で、この第1回が開催できるのか心配しておりましたが、無事、開催できてほっとしております。

昨日も東京で620人ということで、感染拡大がかなり続いておりまして、東海村におきましては、12月の上旬に職員2人が感染ということで緊張感が走りましたが、幸いにも、この後、広がりを見せておりません。ここ数日も感染者は確認されておりませんので、どうぞ皆様方には、冷静にご対応いただければと思います。

そうは言いまして、全国的には感染拡大が続いておりますので、今日、お集まりの皆様方におかれましては、引き続き、感染拡大防止に向けた手洗い、マスク着用を徹底していただければと思います。

やっと1回目の「自分ごと化会議」の開催に至りました。ここに至るまで、構想日本の加藤代表を初め、伊藤さん、福島さん、そして、今日、ご講演いただく谷口先生等、皆様方にご支援いただきまして、この運びとなりました。

この会議の参加希望者は当初、26名で、少し変化がありますが、何よりも、今日参加していただいた皆様、本当にありがとうございます。傍聴席にもたくさんいらっしゃいまして、マスコミも多くて、非常に注目度が高い中で、この会議に参加してみようと手を挙げていただいた皆様がこれだけいらっしゃったからこそ実現できた会議だと思っていますので、これから、何とぞよろしくお願いいたします。

東海村にとって原発問題は非常に大きなテーマです。私も、今、2期目を終えようとしていますが、原発問題については、ずっと悩み続けている一人であります。なかなか答えが見出せない中で、住民の方々はどうのように考えているのかということ、いろいろな形

で探ろうとしてきました。

そのイオン東海店で毎月1回、「ふれあいトーク」などもやって、住民の方々から直接お話を聞く機会も設けておりますが、私が村民と1対1とか複数でという話し合いはできませんが、その広がりにはなかなかないかなと。住民同士が意見を交わせる、話し合いができる場が必要ではないかなと私は思っていました。松江で行われた「自分ごと化会議in松江」の事例を見て、これがいいなと思ってまして、こういうことを企画したところであります。

9月の講演会で、「自分ごと化会議」についてはお話ししましたし、この後、また説明があると思いますが、どうかこの会議の中で、本当に自分がどうありたいか、どうしたいかというのを率直にお話しいただければなと思います。皆様方の意見は必ず守られますから。傍聴者がたくさんきて来ていますが、その方々は傍聴しているだけです。皆様方の意見が尊重されるということで、そこは自信を持ってお話しいただければなと思っています。

この会議の成り行きに私も非常に注目していますので、5回程度だと思いますが、全て参加させていただきたいと思っています。

皆様方のこの会議の成果は、この後、私がきっちり、また違った形で展開していくことをお約束しますので、ぜひ有意義な会議にしていいただければなと思いますので、何とぞよろしくお願ひしたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。

○司会 続きまして、「自分ごと化会議」の運営にかかわってくださる政策シンクタンク・一般社団法人構想日本代表理事の加藤秀樹様からご挨拶を頂戴いたします。

よろしくお願いいたします。

○加藤 皆さん、こんにちは。3カ月前の9月に、「自分ごと化会議」の意義をご理解して頂くためにシンポジウムをやりました。それを入れると6回、今から皆さんと一緒にこの会議をやっていきなと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

多分、前に座っておられる方は、これからどういうことになるのかなと思っておられるのではないかと思います。役場から通知が来て、皆さんは、参加しようということでしたっけですね。通知を出した数が1,000人ですから約3%弱の方から参加されるわけですね。町によって、これが2%だったり、5%だったり、少しずつ違うのですが、どこでも、大抵の人は、今まで人前で余りしゃべったことがない。後ろに傍聴者がいると、何かしゃべりにくいなと思っておられる方も多いと思います。参加しようか、どうしようかというときに、「いやあ、これはやめておいたほうがいいのではないかな」とか、「せっかくだから行ってみたら?」とか、いろいろな話がご家族や友人の間であつたかもしれません。

構想日本は今まで150回ほど、こういう会議をやってきました。皆さんのように、本当に初めて人前でしゃべる、特に今日は、原発という、なかなか人前でしゃべりにくいテーマですが、今回はいい議論ができなかったなというのは一回もありません。

ここで20人、ここで50人、ここで15人、こうやって参加された方の合計がもう1万人に

なっています。そういう意味では、同じようなお立場の、ある種の皆さんの仲間がもう既に全国には1万人いるということです。

さっき村長がおっしゃいましたが、伊藤はコーディネーターとしてはとても経験豊富ですから、安心してお話ししていただけたと思いますし、今日、後から、松江で原発の議論をして、そのときの参加者の中の3人がオンラインで、こんな感じだったよといったことを話してくれるのですが、そのときの感想として、こうやって、みんなの前で安心してしゃべれる場所があるのはすごくいいことだというアンケートの答えがたくさんありました。そういう意味では、これまでの参加者一万人すべてが、個人の意見なのですから、みなさん安心して話してください。

自分ごとの反対は他人ごとですね。では、何が「自分ごと」なのでしょう。一番端っこにいらっしゃるRさん、何が自分ごと？ 何を自分ごとにするのでしょうか。

○参加者R 自分に関する、自分の周りの生活のことかな。

○加藤 そうですね。みんな自分のことは自分のことなのですね。仕事とか、コロナでも自分ごとというか、自分のことは自分のことなのです。でも、その分、逆に、人のことやまちのことなどは置いてきぼりになる。つまり、他人ごとになることが多いのです。しかし、これらは常にセットなのですね。常にセットで、自分のことだけ考えて、世の中のこととは放っておいてもいいやとみんなが思うと、いろいろなものがうまくいなくなるわけです。

自分のことは、当然、仕事だって、家族だって、趣味だって大事。大事だけれども、ふだん余り考えていない世の中のこと、人のこと、ここであれば、20人ほどの中で共有できるものは、実はいっぱいあるのです。あまり共有できないように思っている、2回、3回、4回続けていくと、ほかの人がしゃべっていると、「ああ、そうか。自分とは全く逆の意見だったけれども、こういう事情は分かるな」というのは必ず出てくる。ですから、最後、こんな感じでまとめようかということで、ある種のまとめをつくるわけですが、5回目が終わると、すごく仲間みたいな感じで、「えっ、これで終わりなのか。もうちょっと何かやってみたいな」という感想が必ずほとんどの方から出てきます。この会も間違いなく、そのようになると思いますし、松江の場合には、傍聴者からも、あたかも自分がそこに参加しているような気持ちになったというアンケートがいっぱい出てきました。我々、このようになるのはすごくうれしいわけですし、難しいテーマでも、いや、結構楽しかったという意見もたくさんいただいています。

原発というのは大変難しいテーマではあるのですが、そうやって自分の生活に引き比べて、心から考えるというのは意外にやったことないのです。原発は、安全性とか、経済の重要な部分としてという非常に抽象的な話で終わっていることが多いのですが、今日の谷口さんのお話を含めて、なるべく具体的な話で考えていただくと、「ああ、そうだったのか」というのが出てきます。

資料の中に「JI NEWS」という色刷りの1枚の紙があると思います。そこに、群馬県の太

田市で、ごみの問題について議論したことをちょっと書いています。

ごみも、例えば処理場建設賛成・反対、意見が大きく分かれることが多いですね。行政が説明会をすると、そこに集まってこられる方から、「騒音はないのか」とか、「煙は出ないのか」といった質問が出てくる。それに対して、大抵、「いや、ちゃんとやっています」で終わるのです。

ところが、こういう感じでごみの問題をやるとどうなるかというと、ごみの処理場の話ではなくなるのです。自分たちがごみを分別する、集める、燃やす。燃やした灰を処理する。自分たちがごみを出した後、こんなに長いプロセスがあって、こんなに大勢の人がたくさんのお金を使ってやらないといけない。それならば、自分たちもごみをちょっと減らせるのではないかとこのところに来るのです。行政がやっていることというよりも、ごみという問題を自分たちの生活の中で考える。これが自分ごとだと私は思っています。そうすると、靴を買ったときに、箱には入れてもらわないようにする。そういう町の人の具体的な一個一個の行動になっていきます。

原発の場合には、靴を買うのとはわけが違いますから、自分の日々の生活そのものにといいのは比較的少ないといえ少ないのですが、全ての生活でエネルギーを使っているわけですから、そういうことと自分の原発との関係でどうするか、そんなところから話を少しずつ進めていくことが大事なのだと私は思います。

5回終わって、ここで賛成・反対を決めるわけではないのですが、いろいろ議論していると、だんだんこっちの方向に来たなというのは、村長がさっき、責任を持って反映させるとおっしゃいましたが、そういうことがこの東海村をいい方向に導いていく。そういうことができるように、私たちも一生懸命お手伝いをしたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○司会 加藤様、ありがとうございました。

東海村「自分ごと化会議」（名称未定）の概要説明

○司会 続きまして、お手元にお配りしております次第3「東海村『自分ごと化会議』の概要説明」に移ります。

初めに、本日の会議の趣旨等及び諸注意についてと東海第二発電所の現状と今後について、防災原子力安全課係長の山路よりご説明させていただきます。

○山路 皆さん、こんにちは。防災原子力安全課の山路と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今から15分ほどお時間をいただきまして、今、司会からご案内のありました3点について、私からご説明いたします。

それでは、早速ですが、まずは、「自分ごと化会議」の趣旨等についてご説明いたします。

お手元にお配りしております資料ですが、資料1をご覧ください。

前のスクリーンにも同じものを映しておりますので、どうぞ見やすいほうをご覧くださいければと思います。

では、説明に移りたいと思います。

まず、参加者の皆さんは、『自分ごと化会議』って何？』と思われたかと思いますが、「自分ごと化会議」は、会議の参加者の選び方に特徴がありまして、公募等ではなく、住民基本台帳から無作為に抽出された住民が、まちの課題などについて、さまざまな立場の人の意見を聞きながら議論をする会議のことになります。

参加者を無作為で選ぶことによりまして、多様な住民の対話が生まれ、参加者が地域の課題をどんどん自分のこととして考えるようになるという成果が期待されています。

続きまして、この「自分ごと化会議」で話し合うテーマについてですが、日本原子力発電株式会社東海第二発電所に関することが主なテーマとなります。

話し合いの中で、原子力発電所の肯定・否定や稼働の是非についてではなく、まずは自分たちにできることを考え、自分たちはどうありたいのか、どうしたいのかについて、皆さんが普段感じていることや、ほかの参加者の話を聞いて感じたことなどを、参加者同士の意見を否定することなく、冷静に話し合っていきます。

この話し合いには、国内での「自分ごと化会議」の運営に、140回を超える多くの実績がございます一般社団法人構想日本が務めまして、進行や話題提供等をサポートいたします。

続きまして、会議の回数や場所等についてです。

会議の回数は、来年度にかけて全5回程度を予定しています。今年度はそのうち、今日を含めまして2回程度開催します。

1回当たりの会議時間ですが、今日は1回目ということで、こういった事務連絡等もございまして3時間半となりますが、2回目以降は3時間程度を予定しております。

会議の開催場所は、東海村内、また、会議は公開の場での開催となりますので、今日のように、傍聴者や報道関係者などの来場がございます。

会議の議事録についてですが、後日、こちらで取りまとめまして、東海村公式ホームページで公開いたします。

最後に、県外に赴任中などの参加者につきましては、2回目以降、オンライン（Zoom）により参加することがございますので、あらかじめご承知おきください。

会議の趣旨等の説明は以上になります。

続きまして、傍聴席の皆様へ幾つか注意事項を申し上げたいと思います。

お手元の資料2をご覧ください。

すみません。スクリーンの上の部分がかぶってしまって、見づらくて申しわけありません。

まず、1番、新型コロナウイルス感染症対策についてです。

マスクの着用、咳エチケット、手洗い、アルコール消毒、また、会場内の換気等へのご協力をお願いいたします。

続きまして、2、傍聴席のご利用に際しましては、まず、傍聴席での移動については最小限としてください。入退場される際には、会場後方の左右のシャッターを一部開放してございますので、そちらをご利用くださいますようお願いいたします。

続いて、傍聴席でのご発言・会話等にご遠慮くださいますようお願いいたします。

続いて、4番、写真撮影や録画、スマートフォン、I Cレコーダー等を使用する録音・録画、WEB配信等は、報道関係者を除き、禁止とさせていただきます。

参加者や団体等の名誉・権威等を傷つけることのないよう、秩序のある行動をよろしくお願いいたします。

そのほかの注意事項については、お読み取りいただければと思います。

続きまして、参加者の皆様にご説明いたします。

これから、この「自分ごと化会議」におきまして、東海第二発電所をテーマにした話し合いが始まるわけですが、話し合いに先立ちまして、まず、皆さんに共通理解をしておいていただきたい東海第二発電所のことにつきまして、簡単にご説明いたします。

お手元の資料3をご覧ください。

この資料ですが、本日、皆様の資料の後ろのほうに、この紫色の「東海村の原子力」という冊子を配らせていただいております。この冊子の中の49、50ページに、日本原電について紹介しておりまして、そこから一部を抜粋しているほか、原子力規制委員会や日本原電のホームページから引用して作成しております。

それでは、東海第二発電所の現状と今後についてご説明いたします。

まず、日本原子力発電株式会社の沿革についてご説明いたします。

日本原子力発電株式会社は、昭和32年に原子力発電専業会社として設立されました。

東京都の本店のほか、ここ東海村と福井県敦賀市に事業本部を持っております。

東海村には、昭和41年に日本最初の商業用原子力発電所である東海発電所を、また、昭和53年に日本初の沸騰水型軽水炉の大型原子力発電所である東海第二発電所が設置されました。

続きまして、まず、東海発電所について触れたいと思います。

昭和41年7月に日本で初めての商業用原子力発電所として営業運転を開始しまして、平成10年3月31日に運転を停止しております。

運転停止後ですが、平成13年12月から廃止措置に着手しまして、令和12年の終了予定に向けて、現在、解体作業を進めております。

なお、原子炉領域以外のタービン建屋等の附属設備等は順次撤去していきませんが、撤去に伴い発生する廃材の中で、クリアランス制度により放射性濃度が極めて低いものの一部については、原子力関連施設の遮蔽体やベンチ等にリサイクルされております。

続きまして、東海第二発電所について説明いたします。

繰り返しになりますが、昭和53年11月に日本初の沸騰水型軽水炉の大型原子力発電所として営業運転を開始しました。

発電所の規模につきましては、茨城県内の電力消費量の約3分の1を占める大きさです。

平成23年3月の東北地方太平洋沖地震による停止以降は定期検査中でありまして、さらに現在は、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえた地震・津波対策、多様な電源や冷却機能の確保対策など、各種の安全性向上対策を実施中です。

東海第二発電所の新規制基準への対応についてご説明したいと思います。

まず、皆さん、「新規制基準って何？」と思われる方もいらっしゃると思いますので、新規制基準について、簡単にご説明したいと思います。

新規制基準とは、原子炉等の設計を審査するための新しい基準になります。

東京電力福島第一原子力発電所の事故の反省や国内外からの指摘を踏まえまして、平成25年7月に原子力規制委員会が策定しました。

以前の基準の問題点として、大きく2点ございました。

まず、1点目としましては、地震や津波等の大規模な自然災害の対策が不十分でありまして、重大事故対策が規制の対象となっておりませんでした。

2点目としましては、新しく基準を策定しても、既存の原子力施設にさかのぼって適用する法律上の仕組みがなく、最新の基準に適合することが要求されておりませんでした。

新規制基準は、これらの問題点を解消して策定されております。

続いて、具体的な新規制基準の内容を、表を使ってご説明させていただきます。

まず、表の左側をご覧くださいなのですが、こちらが従来の規制基準になりまして、緑の四角と青い四角に計5つほど基準が書かれております。

例えば、自然現象や火災に対する考慮、また、電源の信頼性やその他の設備の性能について、一番下の青い四角になりますが、耐震・耐津波性能についての基準が規定されておりました。

右側の表に目を移していただきますと、そちらが新規制基準の内容になります。

項目が随分増えているのがお分かりいただけるかと思いますが、上段に黄色い四角がございます。

一番上をご覧くださいますと、意図的な航空機衝突への対応がございます。これがテロ対策として新設された基準になります。

その下ですが、放射性物質の拡散抑制対策、格納容器破損防止対策、炉心損傷防止対策については、シビアアクシデント、重大事故対策として新設されたものになります。

その下、緑の四角をご覧ください。先ほどの従来の規制基準と同じ緑色でございます。

一番上をご覧くださいますと、原子炉施設内において水があふれる、内部溢水に対する考慮が新設されました。

そのほか、例えば、自然現象に対する考慮としましては、火山や竜巻、森林火災等が新設されております。

一番下の青い四角をご覧くださいなのですが、耐震・耐津波性能としましては、防潮堤の設置等が強化されたということになります。

この表からお分かりいただけますとおり、新規規制基準では、従来の規制基準よりも多くの内容が新設・強化されたことをまずはご理解いただければと思います。

では、次のページに移りまして、今の新規規制基準に基づきまして、東海第二発電所での対応についてご説明いたします。

新規規制基準への適合性の確認のために、平成26年5月に、原子炉の基本設計や更新などを審査する原子炉設置変更許可と、原子炉の詳細設計を審査する工事計画認可を原子力規制委員会に申請しております。

原子炉設置変更許可については、平成30年9月に許可、工事計画認可については、平成30年10月に認可がおりています。

続いて、令和元年9月でございますが、先ほど、新規規制基準において、意図的な航空機衝突等への対応が新設されたとご説明いたしましたが、その対応としての特定重大事故等対処施設の設置に係る原子炉設置変更許可を原子力規制委員会に提出しまして、こちらは現在審査中でございます。

一番下をご覧くださいなのですが、こちらは新規規制基準への対応とは別になりますが、平成29年11月に、運転期間を20年延長する運転期間延長を原子力規制委員会に申請しまして、そちらは平成30年11月に認可がおりております。

では、最後に、現在行われております東海第二発電所の安全性向上対策工事スケジュールについてご説明いたします。

表の一番左側をご覧くださいますと、工事の項目が載っております。表の一番左側をご覧ください。

項目Ⅰとしては、津波から電源やポンプを守る設備とあります。その下のポチをご覧くださいますと、防潮堤等を設置する工事がございます。

右側に目を移していただきますと、防潮堤等を設置する工事につきましては、2020年、今年の1月から準備作業や干渉物撤去、地盤改良工事が現在も継続して行われております。

その表の下をご覧くださいますと、防潮壁等の設置工事等についても、現在、同時並行的に行われておりまして、表の一番右側をご覧くださいますと、2022年の12月まで、この工事が行われるというスケジュールになっております。

項目Ⅱが電源を多様化する設備、項目Ⅲが原子炉を冷やすための設備、項目Ⅳが発生した熱を海へ放熱する設備、次のページへ移りまして、項目Ⅴが格納容器を冷却する設備、項目Ⅵが環境を守る設備、項目Ⅶが自然災害に備える設備として、記載のような工事が現在行われておりまして、いずれも最長で2022年の12月までというスケジュールで、現在、工事が行われております。

私からの説明は以上になります。ありがとうございました。

○司会 続きまして、「自分ごと化会議」の意義等について、構想日本総括ディレクター

の伊藤伸様にご説明をお願いいたします。

なお、伊藤様は、現在、内閣府政策参与として、河野太郎大臣のもとで行政改革にもかかわっておられます。

それでは、伊藤様、よろしくお願いいたします。

○伊藤 こんにちは。ご紹介いただきました構想日本の伊藤と申します。

今日は1回目で、どうしても話を聞く時間が長くなってしまいます。ただ、この「自分ごと化会議」自体は、今、前におられる皆さんと一緒に議論することが中心になりますので、今日は、どんなことをやるのかということで、聞く時間が少し長いところはご容赦いただきたいと思います。

私から、この後20分ぐらいかけて、では、具体的にどういう流れで、どんな考え方でこの会議を進めていくのかという話をしていきます。

先ほど代表の加藤からも話がありましたように、この「自分ごと化会議」という仕組みをつくったのが構想日本です。構想日本というのは、東京にあるNPOのシンクタンクなのですが、こういったことを2009年から、10年間ぐらいやっています。

最初に申し上げたいと思うのですが、この会議で、原発や原子力のことをテーマにやることが前提ではないです。いろいろなテーマでやっています。その中で、東海村は今回、原発というテーマで、「自分ごと化会議」を開きたいということになったという流れになります。

皆さんのお手元の資料とスライドは一緒ですので、見やすいほうをご覧くださいと思います。

「自分ごと化会議」の最大の特徴は、無作為抽出という手法になります。これまで行政が、いろいろな住民の意見を聞きたいとか、会議に参加してもらいたいというときに、ここに書いています公募というやり方が一番多いと思います。これは東海村に限らず、全国どこへ行っても大体同じだと思います。

公募というのは、ホームページや村の広報紙などで、こういう会議をやるので参加してくださいという案内をする。そうすると、大抵は少数の人しか手が挙がらない。少数の人の特徴は、どちらかというと、高齢の方が多くて、女性より男性が多い。全国的にそういう傾向が出ています。とてもやる気のある方ではあります。

もう一つ、推薦や一本釣りというのは何かというと、要は充て職です。団体のトップの方、商工関係の会長さんや農業団体の組合長さんなどに会議に入ってもらいたいということも、行政の中でよくあるかと思います。その地域などでとても影響力を持っている方が入るので、実行するにはとてもいいという考え方も当然出てくるのですが、これも東海村ということではなくて、全国的によく言われているのは、団体から出てくるので、看板を背負ってくるということもあり、実質的というよりは形式的な話になってしまいがちだということです。

今、私が申し上げた公募や充て職はだめだということを言いたいのではなくて、やる気

のある方や影響力を持っている方の意見も当然聞いていく必要があるし、それも踏まえていくのですが、それだけが住民全体ということにはならないので、構想日本では、方式を一つ追加しようということで、無作為抽出というやり方を10年ぐらい前からやってきています。ですので、東海村は今回、この方式も使いながら、多様な人たちの意見を聞いてみたいということになりました。

構想日本は、こういった会議を今まで140～150回やってきています。今、前におられる皆さんと同じように、手を挙げてくれた方々がこの10年間で1万人ぐらいいらっしゃいます。

構想日本としては、140回、150回やってきている中で、いろいろ特徴や効果が見えてきているところがあるので、この無作為抽出を、原発ということだけではなくて、いろいろなテーマで、いろいろな自治体に勧めています。

例えばどんなテーマがあるかというのをこのスライドで書いています。例えばごみ問題や子育て支援、防災といった少し大きいテーマで話をするともあれば、市民会館建て替えや村役場庁舎建て替えといった個別具体的な課題をテーマにすることもあります。その中で、今回、東海村は、原発をテーマにしています。

先ほども少しご紹介がありました。原発をテーマにするのは今回2回目になります。これですね。島根県の松江市で、原発を自分ごと化しようというテーマで議論していきました。これが2018年、2年前になります。

少しだけ違うのは、この東海村での会議は、村役場、行政が主催してやっています。行政主催なので青くなっています。こういった会議は、基本的には行政が主催することが多いのですが、松江でやったときは行政ではなくて、住民グループが主催している。そこに違いがあります。

この松江でやっていた会議を東海村の職員さんが見にきていて、このようなことをやってみたいということで、今日のこの場に至っているということになります。ですので、今日、私からの話と谷口先生からの話が終わった後に、松江の「自分ごと化会議」に参加していた方々とオンラインでつないで、どのような雰囲気や議論をしていたのかとか、どのような変化があったのかということを紹介していただこうと思っています。

では、東海村の「自分ごと化会議」はどんな目的でやるのか。大きく2つあります。

1つ目は、原発の問題を政治や行政に任せるだけではなくて、住民自ら、まさにこの会議の名前と一緒に、自分ごととして考えていこうと。この考えていくこと自体も目的の一つということにしています。

もう一つ、この会議で出た課題や解決策を行政にしっかりと報告していく。5回会議を行う予定にしています。先ほどもありましたが、1回、大体3時間ぐらいです。トータル15時間ぐらいかかることになります。皆さんのこの場として、最終的に報告書のようなものを作ろうと思っています。この報告書を行政に提出する。

あらかじめ、皆さん、傍聴の方にも共有しておきたいと思いますが、この場で、最終

的に、原発について、反対とか賛成という一個の回答を出すことが目的ではないです。ここに書いていますように、稼働の是非を決めるとか、この場で民意をはかることが目的ではないです。東海村の民意はこうなったということを出したいわけではなくて、先ほどから話がありますように、原発のことをみんなで話し合う場はなかなかないと聞いています。ですので、身近に原子力発電がある中で、これからどんなことを考えていかなければいけないのか、生活の中で、自分はこれから原発のことをどう捉えていくのかなどについてみんなで話し合っていくことが目的になっていきます。

こうやって話し合いに参加する中で、お一人おひとりの考え方の中で、自分はだんだん賛成になってきたな、反対になってきたなということが出てくるかもしれない。それはぜひとも話してください。ただ、繰り返しますが、この26人の中で、1個の回答を求めるわけではないというところは、ぜひ皆さんにも知っておいていただきたいと思っています。

特徴が4つあります。基本的な考え方です。

今回、結果的に手を挙げてくれたのは26名なのですが、どうやって選んだかという点、皆さんの情報がネットワークで結ばれている住民基本台帳から、コンピューターが完全にランダムで1,000人を抽出しました。ちなみに、これは全村民からではなくて、18歳から75歳までの方を対象に抽出しました。母数でいくと2万8,000人ぐらい。2万8,000人のうちの1,000人に当たった方々が皆さんで、これは割合にすると3.6%ぐらい、倍率にすると28倍ぐらいの抽選に当たった方。当たったからといって、何かいいことがあるわけではないと思うのですが、少なくともそれぐらいの中で当たった。そのうち、手を挙げてくれた方が26名いらっしゃいます。今日は、その中で20名ぐらい参加されていますが、この方々で議論していくということになります。

2つ目、専門的な視点ではなくて、日常の生活実感の中から話し合っていこうと。今この瞬間で、自分は原発のことをとても詳しく知っているのだという方はそんなに多くないのではないかと思います。だから、ここにいて、ちょっと場違いだなと思う必要は全くありません。ここに書いてあるように、生活実感の中から話し合いをしていきたいと思っています。専門的な人や考えを持っている人だけが議論しているような印象がどうしても出てくるところがあるかと思うのですが、この会議では、普段生活をしている中で、どういう関わりを持っているのかとか、逆に、自分は普段、原発のことは余り考えていませんということもこれまた生活実感での一つの意見だと思いますので、変に肩肘を張っていただく必要はなくて、普段考えているところから会議に参加していただきたいと思っています。

3行目に書いていますが、この後、話し合いをするに当たって、シナリオは一切ありません。これは、「自分ごと化会議」をやる中で、どのテーマであっても全て一緒なのですが、例えば、1回目の落としどころはこの辺かな、2回目はこの辺のことを議論して、大体この辺まで行ったほうがいいかなといったものは、構想日本と東海村で一切話し合っていない。行政がやる審議会の中で、落としどころ、方向性は作っておいて、その範囲の中で住民に議論してもらうというのは時々あるかなと私も思っているのですが、この場合は全く

そうではなくて、まさに皆さんが普段、どういうことを感じているかというところから議論がスタートして、です。で最終的な報告書のような形も全く分からないということになります。だからこそ、普段感じていることを話していただきたいと思っています。

3つ目が、「みんなで」考えていこうと。当たり前の話ですが、ここにおられる20名、傍聴者の方を合わせると80名から100名ぐらいの方が、1から10まで全く同じ考えということはずまないと思うのです。ただ、違う考え方を持つ人たちと対立するのではなくて、それぞれがどんな考え方を持っているかということをお互いに理解し合う。もしかしたら賛成の人もいるかもしれない。反対の人もいるかもしれない。これまで全然考えていなかった人もいるかもしれない。そういったさまざまな人が「みんなで」感じたことを議論していこうということが、この会議のルールというわけでもないですが、考え方かなと思っています。意見が対立することはあっていいと思うのです。ただし、相手がどういう思いで話をしているのかというところは、ぜひ自分の中で尊重しながら、解釈しながら、話し合いに参加していただければいいかと思っています。

4つ目です。この後、話し合いをしていくと、段々と、ああ、もっとこうなったらいいのではないかと、これはうまくいっていないのではないかという課題のようなものが、きっと皆さんの中で出てくると思います。それが出てきたときに、原発は、ほかのテーマより大きいテーマなので、東海村だけで解決できることはそんなに多いわけではないと思うのです。かつ行政だけで決められることは全部ではないかもしれない。

何が言いたいかというと、ここに書いていますが、自分でできることは何かないかなとか、地域——もしかしたら町内会、自治会かもしれないし、小学校区かもしれない。それは一人一人違うかもしれませんが、地域でできることは何かないかなということも合わせて、考えをいただきたいと思っています。

こういうことを考えて、今日はないですが、2回目以降、具体的に紙に書いていただく作業が皆さんの中で出てきます。改善提案シートというものを次回以降書いていただく予定にしています。

何かというと、左側に、議論を進める中で、あなたが感じた課題を書いてもらう。右側に、では、それを解決していくにはどうしたらいいかという中で、自分で何ができるか、地域で何ができるか、行政として、どんなことをやってもらうかといった順番で書いていただくようにしています。

例を書いています。少しだけご紹介したいのですが、このテーマは原発ではなくて、子育てや子どもの遊び場をテーマにやったときのものです。

これは町でやったのですが、前の年に子育て世帯にアンケートをとって、どんなものが欲しいですかと聞いたら、公園を作ってほしいというのが一番多かった。なので、町として、新しい公園を作るための場所を探している段階で、こういう会議を開いた。行政側の狙いでいくと、どういう機能を持った公園にして欲しいかという意見をもらいたかったのです。

20人ぐらいおられる中で、子育て世帯は3分の1ぐらいいたのですが、話し合いを進めていくと、ここに書いているように、課題として、今ある公園が使われていないというのがだんだん見えてきた。欲しい、欲しいという話もあったのですが、そもそも今ここに公園がある。では、まず、自分で何かできるか。ここに来て、知らない公園が多いことが分かったので、知る努力をしていったほうがいい。また地域としては、今までは、公園の整備を造園業者のようなところに委託していると思っていたけれども、全然手つかずのところがあることが分かったので、では、自治会として何かお手伝いできるのではないかという話になった。

行政としては、新しい公園を作ろうと思って言っていたのですが、その前に、今ある公園が使われていないことが見えてきているから、遊び場のマップを作ったほうがいいのではないかという話になったのですね。これが報告書みたいな形でまとまる。町長がこれを受け取って、では、マップを作ってみようと。ただし、行政職員だけでマップを作ると、あまりおもしろくないものができてしまうかもしれない。無作為抽出で当たった人の中に大学生がいた。その大学生がまちづくりのサークルにたまたま入っていた。そのサークルにボランティアでお願いして、一緒に作ってもらった。結果的に、このマップがコンビニとかいろいろなところに置かれるようになって、それを見て公園に来る人が増えてくるという結果が出た。

今、何を話しているかというところ、今の話は、抽選でたまたま当たった人たちの中から新たな政策を作り上げたのですね。これは、その町で抽選に当たった方々がたまたますごく意識の高い方々だったかというところ、僕はこのような場のコーディネーターをずっとやってきているのですが、そうではないと思う。どこの自治体でこういうことをやっても、皆さん、同じように、建設的な話をしていただけるし、考えていただける。

これはどういうことかというところ、この会議では、どうすべきかという話をするのではなくて、自分はどうかしたいかというところを議論の入り口にしていきたいと思っています。どうすべきかという話をしようと思ったら、これは専門的な人たちが集まったほうがいいかもしれない。しかし、どうすべきかという話と実際の生活の現場と大分離れていることが多いのではないかと私は思っている。今日参加されている皆さんがこの後、いろいろ話をしながら、どうかしたいかというところを議論の中心にしていきたいと思っています。

では、どういう人たちがこの場に参加するのか。

中心は、まさに皆さんです。無作為に選ばれた人たちです。

あと、原発で考えなければいけないことはたくさんあるので、何を考えるポイントにしていかなければいけないのかについて、谷口武俊先生にお越しいただいています。何をやるにもリスクがありますが、そのリスクをどのように捉えたらいいのかといったところをこの後、お話しいただくことになっています。

さらに、これは今回だけになりますが、2年前に原発をテーマにして会議を開いた松江

の参加者の方、3名をオンラインでつないでいますので、当時の様子とか、その後、どんな変化があったかというところをお話しいただこうと思っています。

コーディネーターは、私が務めます。コーディネーターの役割をここに書いていますが、議論の進行役や論点の整理です。皆さんが話したいことを話せる空間をつくるのがコーディネーターの一番大きな役割、目指すところではないかと思っています。

この他に「ナビゲーター」という人もいます。誰を呼ぶかはまだ決めていません。アドバイザー、外部の視点から論点を整理するような方。話し合いをする中で、わかりにくいところ、もっと知りたいことが出てくると思います。そういうときに、お願いをしようと思っています。第3回目ぐらいに来てもらえるといいかと思っています。

事務局はこの後、何回か出てくるかもしれません。役場の職員さんですね。先ほど全体像の説明をいただいた東海村の防災原子力安全課の方です。

こういうメンバーで、この5回の会議を進めていくということになります。

大まかな議論の流れです。

先ほどから申し上げているように、今日はどうしても、この趣旨の説明や現状の把握で時間がかかってしまいます。

この後、皆さんに自己紹介をしていただこうと思っています。まずは順番にご発言いただこうと思っています。

2回目は、原発の現状把握のところに書いていますが、原発について、日常生活で感じる課題やありがたい姿など、皆さんが普段感じていることをどんどんご発言いただきたいと思います。

イメージでいくと、2回目から本格的な議論を進めていきます。2回目、3回目、4回目は、これはこの場で話をすることではないかなといったことも含めて、どんどんご発言いただきたいと思います。感じていることをどんどんご発言いただきたいと思います。

そのときそのときで私から、例えば2回目で多かった意見を3回目以降の論点の提案などをしていこうと思いますので、皆さんは感じたことをどんどんご発言いただければと思っています。

全部で5回と先ほど申し上げました。毎回、皆さんに、先ほどご紹介した改善提案シートを書いていただこうと思っています。書いていただいたものを構想日本である程度まとめた上で、報告書のようなものをつくりますので、最後は、それを皆さんで確認していく時間にしたいと思っています。最後は集約する時間になります。

これが5回で15時間ぐらいです。

ちなみに、自分は多分、5回全部は参加できないから、もうやめておこうかなと思う必要は全くありません。ご都合の中で、2回目出られない、3回目出られないということがあると思います。ぜひ出られる範囲で来ていただきたいと思いますし、例えば、2回目、3回目休んだから、もう議論についていけないかなと思われるかもしれないですが、資料もちゃんと皆さんに送付いたしますし、毎回、振り返りもしていきますので、乗り遅れること

のないような進め方をしていきますので、出られる範囲で、ぜひご参加いただきたいと思います。

最後に、今回、東海村は1,000人に送付して、応募してくれた方が26名、応募率に直すと2.6%になります。こういう4回、5回にわたってやる会議、今までやった同じような会議での平均は大体3%から4%です。若干低いところに位置すると思います。ただ、これは、低いからよくないとか、高いからいいという話ではなくて、何よりも、このように手を挙げてくださった方々と一緒に話し合いをしていくということこそ大切ではないかなと思っています。

皆さんにもアンケートに答えていただいたかと思います。無作為で1,000人に送付をしたときに、あわせてアンケートで、原発に関して幾つか聞いています。時間があれば、後ほど、これをご紹介しながら、同じような質問を松江でもしているので、その比較もご紹介したいなと思っています。

今、この時間の中では、まずは、この会議は、こういう考え方で、このように進んでいくのだなというところを皆さんに知っていただければいいかなと思っています。

私からは以上とさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 伊藤様、ありがとうございました。

基調講演（対談形式）「原発を考えるための視点」

○司会 それでは、次第4「基調講演『原発を考えるための視点』」に移りたいと思います。

ご講演いただきますのは、東京大学名誉教授の谷口武俊様です。

谷口様は、昭和59年に東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了され、エネルギー総合工学研究所に入所された後、平成6年に電力中央研究所経済社会研究所に入所され、社会経済研究所長・研究参与を経て、平成24年より東京大学政策ビジョン研究センター教授として教鞭をとられました。

現在は、東京大学名誉教授、東京大学公共政策大学院客員教授として、日々お忙しくご活躍でいらっしゃいます。

なお、この基調講演でございますが、ご講演いただく内容について、ポイントを捉えてわかりやすく解説したいとの趣旨から、対談形式とさせていただきます。対談のお相手は、構想日本・伊藤様にお務めいただく形で進めてまいります。

したがって、ここからの進行につきましては、伊藤様に交代させていただきます。

伊藤様、どうぞよろしくお願いいたします。

○伊藤 話を聞く時間が長いとさっきも申し上げました。もう一回、話を聞いていただくことになります。この後、3時半過ぎぐらいまでやって、一度休憩をとりますので、もう少しお話を聞いていただければと思います。

ここからは谷口先生から、この後、どんなことを考えていく必要があるのかということ

を15分ぐらいお話しただいて、そこについて、私から少し質問しながら、さらに解説していただこうかと思っております。

それでは、谷口先生、お願いします。

○谷口 こんにちは。谷口と申します。よろしくお願いいたします。

エネルギー問題あるいは原子力問題といった社会全体にかかわる大きくて複雑な問題、いわゆる公共的な問題は、どのような考え方をベースに判断していけばいいのだろうかというのは大変難しい問題ですが、今日は、ここにあるような内容をかいつまんでお話ししたいと思います。

まず、このスライドをご覧くださいと思いますが、これは、福島事故の前後、2009年と2012年に、首都圏の市民と原子力領域関連の大学教員を対象に行いました科学技術に対する考え方に関する意識調査の結果から持ってきたものです。

このスライドは、原子力発電を評価する際に、どういう点を重視するのかというものを聞いたものであります。

これを見ますと、1のところにありますが、事故の後、市民は社会にとって原子力が必要かどうかということを最も重視するようになりました。

そして具体的にどのような評価をしているのかといいますと、この一番上を見ていただければ分かると思いますが、社会にとって必要かということについての評価は極めて下がっているわけであります。

一方、原子力の専門家の方々は、事故の前後においても、原子力の社会的な必要性を重視していますが、その中をよく見ると、その立ち位置、あるいは見ている社会的なリアリティーも少しずつ変わってきていると思われます。

原子力に限らず、潜在的に大規模なハザード、原子力ですと放射性物質ですが、そのようなものを内包している技術あるいはそれを使う活動などについては、社会として明確な正当性を確保することが極めて重要であります。そして、社会的なリスクの受忍性あるいは受容するかどうかということに関する社会的な合意、そしてプロセスの手続的な公正さに関わる社会的な正当性の確保が不可欠であります。

福島事故は、東京電力や政府・保安院のリスクマネジメント、危機管理の失敗や安全性評価に関する不備・瑕疵があったということもありますが、それを踏まえて、国は、厳しい安全審査をすることによって問題の解決を図ろうとしていますけれども、その問題の根源は、ここにあるように、もう少し上流というか、原子力発電の利用ということについて、社会的な正当性があるのかどうかというところにあるのではないかと思います。

先ほどのアンケートの結果を見ると、原子力は社会にとって必要かという問いを、社会が真正面から突きつけてきたと我々は理解すべきだと思っています。

2000年にイギリスの上院の委員会が遺伝子組み換え作物に関する報告書を出しました。その中に、この論争は安全性に関するものではなく、それよりもっと大きな問題、つまり私たちはどのような世界に生きたいと欲しているかを巡るものだったという一文があり

ます。こういう問題認識は、原子力発電の利用ということに関しても同じだと私は思っています。

ちょっと戻りますが、従って、原子力の利用の社会的な正当性ということの議論が必要だということです。ただ、これは単にリスクや便益の比較衡量の問題ではないということです。正当性を論じるという視点は多様であります。従って、合意を得ることは極めて難しいかもしれません。しかし、市民が何のために原子力技術を開発利用するのか、どのような必要性があるのか、なぜ我々はリスクをとらなければいけないのかと問うのは、自分たちを不確実性にさらすに値するほど、原子力は重要なものなのかということを自から吟味したいと考えているからではないかと私は思っています。この問いに正面から向き合って議論することはとても重要ですし、避けてはいけないと思います。この問いに答えずして、前に進むことはできないと思います。

これから東海村の皆さんがどのような視点から、原子力の社会的な正当性というものを論じるのか、私たちの価値選択が問われているのだと思っています。

そこで、では、こういう問い、公共的な問題を考えていくに当たって、どのような認識を共有しておく必要があるのかということでもあります。

我々の社会経済活動は、広域かつグローバル、そして重層的につながって相互に依存し、また、複雑化し続けています。しかし、このことは、平時においてはなかなか実感しがたい。東日本大震災や福島事故、また、今の新型コロナのような極めて大規模な災禍によって、被害が広域かつ長期に顕在化するに至って、ようやく我々は、さまざまなことがつながっているということを初めて実感するわけです。

我々が生きている社会では、直接あるいは間接に、個人、組織、地域、そして国家の間に有形・無形の利害関係が生まれています。そこでは多様な価値観や規範がせめぎ合っています。このことをまず再認識する必要があると私は思っているところです。

このような認識を踏まえて、先ほどの問いを考えるための視点として、私は、ここにありますように、安全・安心からリスクの視点へ目を向けていただきたいと思います。

日本では至るところで、耳ざわりのいい安全・安心という言葉が政治的なスローガンとして使われています。安全は科学的な問いであって、科学によって答えられる、あるいは、安全は実績で判断できる、安全は規制機関によって保障されるといった幻想あるいは神話が、我が国では広く存在していると思います。

本来、安全というのは、社会的な概念であり、社会的な合意に基づいて暫定的に決められる決まり、約束事であります。

リスクについては、ここの下のほうに定義を書きましたが、留意していただきたいことは、ここにある「望ましくない結果」という文であります。何を望ましくない結果と考えるかというのは人によって多様であります。こういう多様であるということを認識しておく必要があるということです。そのことを理解して話をしていかないと、そこには認識のギャップが生まれ、不信感など、さまざまな問題が引き起こされていくということであり

ます。

では、リスクという視点から社会的な問題を考える上で、知っておいていただきたいなと思っていることを述べたいと思います。

第一は、先ほど、私たちは複雑につながった社会に生きていると言いましたが、そこでは、ここにあるシステミックリスクということで、極めてさまざまに影響が広がっていく。リスクが連鎖していく。そういうリスクが顕在化するという。そしてリスクは再興する。下のほうに書きましたが、既に受け入れられているリスクあるいは既に対応済みのリスクであるが、社会の価値観や、政治環境、経済環境の変化によって、人々のリスクに対する心理的な認知が変化すると、その新しい状況の中で相対化されて、既に対応したものがまた最重要なリスクであるとか問題だと言われるように、社会の中で再び顕在化してくるということでもあります。

それと、何か起きたときに、リスク情報は、社会の中で増幅あるいは減衰するということです。現実の社会を見てみると、多くの場合、専門家がこれはリスクが低いと言った情報は、社会の中で増幅していき、逆に、専門家がこれはリスクが高い事象だという情報を流すと、社会の中で減衰していく傾向があると言われています。こうしたリスク情報の増幅あるいは減衰がまた新たなリスクを生むということです。これは、我々の行動が生み出す無用なリスクです。案外、これが社会の中に多いということでもあります。

それと、リスクの問題については、俯瞰的に捉えるということを意識的にしていただきたいと思います。ここにありますように、リスクとリスクのトレード。あるリスクを減らそうとしたら新たなリスクが生まれる。どういうリスクが生まれるのかということを俯瞰的に捉えることが極めて重要であります。

リスクの存在を理由に、特定の技術、例えば原子力や、先ほど言った遺伝子組み換え技術などは排除すべきだといった主張がしばしばなされます。このことをどう考えるか。技術のリスクは、その使い方に依存するものであります。従って、特定の技術の排除は、必ずしも社会のリスクを減少させることを保障するものではないわけです。新たな対抗リスクを生み出したり、潜在的なリスクであったものを顕在化させる可能性があるのだということを認識する必要がある。これがリスクとリスクのトレードオフということです。社会活動におけるリスクの相対化という視点で考えるということでもあります。

自分たちが対象としているリスクを減らそうとすることによって、どういう人たちに影響を及ぼすのか。ここで重要になるのが、異なる集団、すなわち、複雑につながった社会の中において、この問題に直接・間接に関わる個人、集団、地域社会、国際社会、そして将来世代を思い描いてみる。そういう想像力が、こういうことを行うには極めて重要になるわけであります。

特に原子力技術を利用していくことについて、皆さんが吟味していく、社会的な正当性を議論するとき、あるいは社会全体のことを考えようとするときに、このリスクとリスクのトレードオフがどのような形で起こるのかということを考えることは極めて重要だと思

います。

では、時間もないので、原子力発電の利用ということを考えるための視点ということで述べたいと思います。

日本のエネルギー政策は、エネルギーの自立を目指して、3E+Sと言って、エネルギー安全保障、資源依存度という観点、経済性、そして環境適合性という観点から議論され、その組み合わせということが議論されてきました。

その中で原子力発電は、3つのEについて、優れた特徴を持っているのだという説明が、政策の中ではなされるわけですが、ここではちょっと違った観点から見たいと思います。

原子力エネルギー技術は、リスク心理学の観点から見ると、ここにあるような恐怖感や未知性、災害規模という観点から、極めて忌避されるテクノロジーである。

2番目に、健康・安全・環境、いわゆる社会的規制という観点から見ると、情報の制約が大きい、情報の非対称性が大きい、大規模な負の外部効果を伴うということで、極めて厳しい規制がかけられているということでもあります。

そして、もう一つ覚えていただきたいのは、一番下にありますように、原子力発電技術体系である核燃料サイクルは、燃料の連鎖ではありますが、高度技術システムの連鎖であり、リスクの連鎖であり、責任の連鎖であるということでもあります。

また、こういう技術の特徴に加えて、もう一つ知っておくべきことは、原子力事業、発電事業の特徴についてもちゃんと理解しておく必要があるということです。これは、よく言う国策民営ということで、この事業は、参入すること、退出することが極めて難しく、長期に関わらなければいけない。それと、中央と地方、政治が深く影響してくる、多くの人的資源を要し継続的に維持しなければいけないという特徴を持っています。

もう時間が迫っており終わりにしますが、これから皆さんが議論される中では、切り口というか、視点を変えて見てみる。あるいは、視座、立ち位置を変えて、ものを考えてみる。それと、視野を変えて、原子力について考えてみてほしいと思います。

特に公共的な問題を考えるときは、時間あるいは空間を広げて考えることが極めて重要になってきます。

皆さんもご存知の、ハーバード大学の政治哲学者のマイケル・サンデル先生がNHKの番組「究極の選択『大震災特別講義』」の中で、今後の原発政策、エネルギー政策はどうあるべきかという「白熱教室」をやりました。

彼はその中で2つのシナリオを示して、賛成、反対が熾烈に争われて、感情的になりやすい原発問題で、理性的で、お互いに尊敬を持って議論できるかが、民主主義に対する究極のテストであると言ったそうです。公共哲学の方法論の一つは対話です。ソクラテス的な対話法、相手が自ら考えることを促す問答法です。

ぜひ皆さんでこういうことにチャレンジしていただきたいと思いますし、その議論の過程では、ぜひ、その前提としている条件を変えてみていただきたいと思います。そうすると、そこにはモラルジレンマ、いわゆる道徳的価値の葛藤が起きると思います。そして、

議論しても答えは出ないだろうと思います。しかし、その議論を通して、多様な価値観を学ぶことができると思います。

理想主義的な現実主義、現実の中で、どう理想を実現していくか。人は理想を求めることに根源的な喜びを感じるということもあり、理想を掲げることは極めて大事だと思います。非現実的だと言っていたことが現実のものになったということは多くの例があるわけであります。

ただ、現実を見据えない理想主義は現実の前に敗北する。理想と現実の間のギャップを冷静に見定めて、現実的な目標を設定して行動する。両者のバランス、折り合いをつけていく。理想に向かうために議論をして欲しいし、さらに、やれることは一体何かという確実な提言を出していただければということを期待しています。現状を追認するのが現実主義ではないということです。ただ、現実と理想をうまく組み合わせて、議論を組み立てていただければと思います。

○伊藤 ありがとうございます。

今、谷口先生が投げかけたことを振り返りつつ、私から質問していきたいと思うのですが、今日のスライドの最初のアンケート結果は何かというと、結果的には、3.11の原発事故の前後によって評価が大分変わってきているというところを最初にご紹介いただきました。

何が変わっているかというところ、安心感や信頼の部分が低下しているというところ、この対応策として、先ほど先生からお話がありましたが、行政的には厳しい規制をかけていくようにしている。実際に今、最初の東海村からのご紹介にも、原子力を動かすか、動かさないかという中で、新基準をつくったというお話があったかと思いますが、そのようにして規制を強めていった。

ただ、そこで終わるのではなくて、そもそも原子力は社会にとって必要かどうかというところから考えていかなければいけないのだというのが谷口先生の最初のお話だったのかなと思います。

これを考えるに当たっては、幾つかの視点、視野、視座というお話があったかと思うのですが、いろいろなことが全部つながっている。これは、原発ということを考えるだけではなくて、そもそもの生活スタイルにも関わってくるかもしれない。今と同じ電気をこの後、10年後、20年後、30年後、使うかどうかによっても変わってくるかもしれない。いろいろなものがつながっているのだというお話が谷口先生からあったかと思います。

谷口先生の言葉で、安全・安心という言葉がパフォーマンスとして使われているというところがあったかなと思うのですが、安全という考え方はあくまでも暫定的に決められるものであって、安全という言葉をもって、これはいいことだということではなくて、その背景は何かということをもっともっと考えていく必要があるだろうということがあったかと思います。

もう一つ、中盤のお話で、リスクという言葉がありました。原発を動かすことには当然

リスクがある。では、どんなリスクがあるのか。これは別に原発ということだけではなくて、我々が生活をする中で、あらゆる行動において、何かしらのリスクは存在していて、そのリスクをかけながらも、例えば利便性の追求をするか、何かをする。これが先ほどのリスクのトレードオフで、要は、何かすればリスクがかかる代わりに利便性がとれる。逆もまたしかりで、利便性をとりにいこうとするとリスクもかかる。これはコロナの話と全く同じかもしれないですが。

最後にお話をされた、解は1個ではないということで、結局、この話は、みんなで考えたとしても、それぞれ違う思いになるかもしれない。でも、多様な価値観、多様な考え方があるのだというところを目指すことは、先ほどの社会にとって必要かということを考える上では、とても大切ではないかというのが今の先生の話だったかなと思います。

ここから私が少しだけ質問していきたいと思うのですが、では、今みたいな考え方の前提があった中で、これから考えるに当たって、今、原発が具体的に直面している問題はどんなところなのか。多分、16ページ目ぐらいのスライドかなと思うのですが、この辺、少しご紹介いただければありがたいなと思います。

○谷口 皆さん、新聞等で見ていることもあると思いますが、私が見ているところで、この上にありますように、まさに再稼働ということが今言われていますし、それに当たって東海村でも議論されている、いわゆる緊急事態の対応といったものがあると思います。これは実効性があるかという議論もあるだろうと思いますし、広域な安全協定を結んだ東海モデルがあって、村長は苦勞されていると思いますが、このようなものをどう実効的に運営し、意思決定に結びつけていくのかというのはさまざまな議論の余地があるところで、これは大きな問題の一つだと思っています。

それ以外に、上から2番目ですと、むつ市への使用済み燃料の中間貯蔵のお願いが電事連から出ているという話がありますように、これも大きな問題だと思っています。

それと、言うまでもなく、高レベル廃棄物、福島処理水の問題、廃棄物対策問題、東海村でも廃炉が進んでいるわけですが、解体廃棄物の問題もあります。さらには、六ヶ所村の再処理工場に関わっては、余剰プルトニウムをどうやって減らしていくか。それと、プルサーマルの予定していた基数も、先日、電気事業者連合会が少し減らすという方向になりましたが、こういう問題もあります。

それと、ここにはJAEAがありますが、JAEAが持つさまざまな研究施設の廃止措置あるいは閉鎖に関わる公的財源の問題を含めて、さまざまな問題を抱えている。

さらには、電気事業者の経営体力の問題と、ここにある知識基盤・技術基盤・人材基盤の弱体化ということで、メーカーのそういう能力も、このままだと劣化・衰退していきだろう。

こういうさまざまな問題があると思っています。

ここが一番下に書きましたが、結局、このような問題は、先ほど、燃料サイクルは技術の連鎖であるし、リスクの連鎖、責任の連鎖だと言いましたけれども、全てつながってい

るということです。だから、東海村の発電所のこの問題一つとっても、さまざまな問題、原子力の大きな問題と全てつながっているということです。だから、どこかが閉塞すると、さまざまなところが閉塞してしまう。今の日本の原子力は、こういう技術体系の中でできているということでもあります。

もう一つ、ここでお話ししたいのは、そういうことを含めて、私も、東海村以外でもいろいろな議論をすることが多かったのですが、2番目のところに書きましたけれども、例えばコミュニケーション一つとっても、技術的な仕組みといったことについての説明が多く、全体像が分かるとか、筋が通ると分かるといったコミュニケーションは少ないのではないかと思います。ここであつたように、何となく半信半疑で、何か分からないという感情があるなと思います。

原子力の問題を議論するには、先ほど言った、問題が複雑に絡み合っているのだということを経一定程度理解することが重要ではないか。どんな問題でも、ある問題を議論しようと思うと、それより上位にある問題や背景を理解しないと、個別の問題は理解できないというか、解決につながらないということは言えるのだらうと思います。

○伊藤 多分、前半の話でいけば、大きい意味で、では、原発が今抱えている課題は何か。3.11でもそうですね。事故が起きたときに、放射性物質が大気に出た。これはまさにあつた話ですね。例えば、これが問題になっている。

もう一つは、事故が起きるか、起きないかではなくて、先ほど再処理の話がありましたが、稼働すれば、高レベルの廃棄物が出る。これをどうするかというのは、結構前から国内で議論されているけれども、これは結論が出ているわけではなくて、では、これをどうするのか。これは東海村の問題というよりは国全体の問題になりますが、そこを考えないといけない。

大きい意味でいくと、この2つが今抱えている課題だということになりますかね。

これを考えるに当たって、もちろん専門家もずっと議論に参加していて、まさに谷口先生は専門家なのですが、専門家である谷口先生が、今お話があつたように、だから対話が必要なのだ、しかも市民との対話が必要のだと。もう一回、ここをお話ししたいのですが。

今回、1,000人に送ったアンケートの中に、1個、「東海第二発電所の問題に関する議論は、行政や議会、専門家などに委ねた方が良い」かどうかという設問があつたのですが、「非常にそう思う」「ややそう思う」という方が36%ぐらいで、一定程度いらっしゃる。でも、専門家である谷口先生からすると、市民と対話していくことが必要のだと。そこで、どういう理由か、もう一回お話しいただければと思います。

○谷口 原子力問題は社会的な問題です。だから、そのような問題は、社会的な影響が大きいということも含めて考えると、専門家に任せなさいという専門家主義はだめなのだと思います。安全性の問題は特にそうでありますし、そういうときにこそ、さまざまな意見を集めなければいけない。技術の世界では、餅は餅屋という意識がすごく強いと思います

が、こういう社会的な問題、特に、ここに書いてあるような科学あるいは技術の世界で答えられない問題がたくさんあるわけです。そこは、狭い専門家だけではなくて、もう少し広く世界に開かれた社会的な知恵を吸い上げていくことが極めて重要だということです。

ここに示す原子力の安全の問題を見ても、例えば、「運転中の原子力発電所の安全装置がすべて同時に故障した場合、深刻な事故が生じるか」という問いに対して、それはちゃんと科学的に答えることができるわけです。では、「すべての安全装置が同時に故障することがあるかどうか」と聞かれると、これもある意味では科学的に答えることはできるわけですが、「それに事前に対応しておく必要があるかどうか」という問いになると、専門家だけでは答えられない。こういうリスクの判断にかかわるようなところは、専門家だけに任せて議論ができるものではないし、専門家が答えられるものではない。

ただ、よくあるのは、一般の人は専門家は何でも知っていると思うところがあるし、どんなものでも、コロナのときでもそうですが、イエスカノーか、「だから先生、どうなのですか」と問いを求められると、専門家は何らか答えなければいけないと思って答えてしまう。でも、そこには、その専門家といっても、人としての価値判断が入って答えているわけです。ただ専門的な話、科学的な判断だけで言っているわけではない。そこには価値判断が入っているわけです。ここの最後の問いは、価値判断の問いなのですね。「どこまで安全なら十分に安全か？」という原子力安全の根源的な問いですが、これは専門家だけで議論できるものではない。

ただ、ここにあるように、原子力ではないですが、これから、人工知能やゲノム編集技術など、新しい先端技術を利用していこうというときに起こってくる問題は、科学で問うことはできても、科学によって答えることのできない問題が、社会の中でさまざま起きてくるということです。

だから、こういう問題には、多元主義と言いますが、さまざまな価値観が併存する社会を容認して、多様な利害関係者が参画して、対話をして、一緒になって考え、協働するという社会的な場・機会を用意して運用する。それを展開していくということが重要であり、現代の社会にはまさにそういうことが求められている。

そこに関わらなければいけない人はどういう人なのか。これは大変難しいですが、先ほど言ったように、複雑な社会は多様なつながりがあるわけです。複雑系の科学という世界で言うと、6次の隔たりといって、6つのステップを辿ると、あるところの人につながり間接的な知り合いになる。そのくらいの複雑な社会の中で、誰が利害関係者かというのを見極めていく想像力を持つことは、先ほどリスクを俯瞰してみるというお話をしたけれども、極めて重要だろうと思います。

東海村の原子力発電所をどうするかということに伴って、さまざまなところにどう影響が及ぶのかということ、想像力を持って考えるということです。全体像として、それをもう一度俯瞰してみるという作業が必要かなと思います。

○伊藤 ありがとうございます。

科学によって問うことができる、科学によって答えることができない問題というのは、この後、議論をしていく中で、ずっと出てくると私も感じていまして、先ほど少しお話があった、どういう生活をしたいかというのは価値観の話になってくるから、これは多分、科学で答えを出せるわけではなくて、私たちもそうですが、皆さん一人一人がどう思うかによって変わってくる。実は、それと原発の話はつながってくるのだということを、この後、話し合いの中でもできたらなと思っています。

スライドの20ページ目以降ですが、東海村では、まさに谷口先生が中心となって、こういう勉強会や議論が何回となくやられています。こういう20ページ目以降の場もあるし、この「自分ごと化会議」のように無作為抽出の場、いろいろな場で、こういったリスクの話、原発の話をしながら、最終的に村としての考え方を決めていくという流れなのかなと思っています。

○谷口 最後に一言。お配りした資料の最後のページですが、東海村では2014年から、自然科学、理工学系ではなくて、原子力に関わって、社会科学系の研究を進める若い研究者を支援する事業をやっています。その成果報告会が来年の2月にあります。今年採用されている研究は、一番下にありますように、東海第二の再稼働は、関東地方の市町村議会でどう議論されているのかというもので、常磐大学の先生が今研究されています。報告会はこの場所ですので、ぜひ皆さん、来ていただければと思います。

○伊藤 日にちは2月26日です。

では、谷口先生、ありがとうございます。拍手をお願いいたします。

(拍手)

○伊藤 時間がちょっと延びてしまっていますが、この時計で45分まで休憩をとらせていただきたいと思います。6分、7分ぐらいになってしまいますが、45分まで休憩をとりたいと思います。

(休憩)

○伊藤 それでは、皆さん、おそろいかと思いますので、再開したいと思います。

前半、何名かの方に感想をお聞きしていたのですが、ちょっと難しかったなという方が多かったかなと思います。あと、ずっと緊張していて疲れたという方もいらっしゃいましたが、この会議は決して硬い会議ではなくて、今日はどうしても話を聞く時間が長いですが、これから笑いが出るぐらいの雰囲気にしていきたいと思いますので、気軽にご参加いただければと思います。

自己紹介

○伊藤 後半です。この後、5時半ぐらいまで、大体1時間半ちょっとです。

この後、まず、皆さんから自己紹介をしていただきます。自己紹介は、お名前と、今のお仕事とか、どんなことをしているか、あと、この会議になぜ参加してみようと思ったかというのを簡単にお話ししていただこうかと思います。

一巡した後に、今既に、後ろにオンラインが流れているかと思いますが、松江からオンラインで参加されている方にも自己紹介していただきつつ、先ほどから同じ話をしていますが、松江で原発をテーマにしてやった会議の感想やその後の変化などを話していただくことにします。

次回以降は全く順番に当てません。今日だけは順番に当てていきます。今日はもう一巡します。自己紹介で一巡して、松江の方から話を聞いた後に、もう一巡して、現時点で原発について感じていることを一言お話しいただきたいと思います。今のところ、まだ何も考えていないというのだって感じていることになりますので、現時点で感じていることを一言ずつお話しいただきたいと思っております。

自己紹介は、もう既にお声がけしていますが、最初、Aさんから、こういう順番でいきたいと思います。

Aさん、お願いいたします。

○参加者A 村松北から来ましたAといいます。よろしくお願いします。

ソニー生命のライフプランナーの仕事をしております。

なぜこの会議に参加したかですが、僕の出身は東京で、10年ぐらい前に東海村に来ました。そこで愛する人を見つけて結婚しまして、東海村に家を建て、本籍も移し、ずっと東海村にしようと決めています。

今、小学校3年生の男の子がいるのですが、愛する奥さんが生まれ育った東海村はどういうところなのかなということいろいろ見ていたときに、やはり原子力の問題がいろいろとありまして、そういったことに興味を持っていたので、今回、改めて、いろいろな勉強もしたかったですし、皆さんのお話も聞きたいなと思って参加させていただきました。よろしくお願いします。

○伊藤 ありがとうございます。

続いてもBさんですね。Bさん、お願いします。

○参加者B 須和間から来ましたBと申します。よろしくお願いします。

建設業関係の仕事をしておりまして、もちろん東海村の原子力発電所でも仕事をしたりしています。よって、原子力発電所に関しての問題はとても身近なものと思っております。

今回、こういう場をいただいて、本当に感謝しておりますので、最後までよろしくお願いします。

○伊藤 では、Cさん、お願いします。

○参加者C 村松から来ましたCです。よろしくお願いします。

仕事は原子力機構です。

この話を聞いたときに、「自分ごと化会議」というのを初めて聞いて、すごくおもしろ

い試みだなと思って、自分の意見を言えることより、皆さんの意見を聞ける場があるのは、自分にとってはすごく貴重だなと思ったので、いろいろなご意見を聞いた中で、自分の中で何か考えが出てきたら、意見交換ができればいいかなと思っております。よろしくお願いいたします。

○伊藤 Dさん、お願いします。

○参加者D 東海のDと申します。

会社員です。

僕は、この通知が来たときに、何か当たったのかなと思っていて、気楽に、何も考えずに、すぐに申請した次第です。純粋にいろいろな人の意見を聞くためだと思いましたので、よろしくお願いいたします。

○伊藤 単純に当たったと思っていただいて、こちらの狙いどおりという感じですね。ありがとうございます。

Eさん、お願いします。

○参加者E E、40代、会社員で、生まれも育ちも東海村で、原子力に親しんで生活してきたという感じなのですが、何とか産業が欲しいなという切なる願いから、この会議に参加させていただきました。

以上です。よろしくお願いいたします。

○伊藤 ありがとうございます。

Fさん、どうぞ。

○参加者F 須和間から来ましたFと申します。

3歳の娘の子育てをしております。

知識もないですし、人の前で話すことも得意ではないので、参加することはかなり悩みました。でも、このチャンスをいただくことは、次はもうないかもしれないので、参加させていただきました。

先ほど申し上げたように、3歳の子どもがいるもので、これから安全に生活をしていけるように、その話し合いに携わることができたらと思い、参加しました。

知識がないもので、おかしいことを言ってしまうかもしれませんが、そのときは教えてください。よろしくお願いいたします。

○伊藤 ありがとうございます。

Gさん、お願いします。

○参加者G 村松から来ました会社員のGといたします。よろしくお願いいたします。

原発問題は身近なもので、自分の意見をきちんと言いながら、皆さんの意見もきちんと聞いて、自分の視野をもう少し広くしていきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○伊藤 ありがとうございます。

○参加者H 須和間から参りましたHと申します。

私も原子力機構の技術者でございまして、これに参加する資格はないかなと思ったのですが、原子力に関して、何らかの貢献などをしないといけないかなと思いまして、参加させていただきました。

皆さんの意見を真摯に聞きたいなと思っています。よろしくお願いします。

○伊藤 I さん、お願いします。

○参加者 I 村松から来ました I と申します。

15年ほど前に東海村に引っ越してきて、今は2児の父です。

原子力関係の仕事はしていません。

今回、この「自分ごと化会議」に当選したときに思ったのは、地方の一自治体で話すには、テーマがかなり大きいということで、ちょっと難しい議論になると思っていました。

現時点で私の考えをはっきり言ってしまうと、テーマが大き過ぎて、一国民にできることはほとんどないし、それによって国が変わることはないかなと、ちょっと悲観的に考えています。

ただ、そういう考えを持っていたので、今回、この会議に参加して、自分の考えがどう変わるのかというのが非常に楽しみです。皆さんと議論して、自分の考えがもっと深くなって、さらに原発問題を理解できるようになりたいと思います。

皆さん、よろしくお願いします。

○伊藤 ありがとうございます。

J さん、どうぞ。

○参加者 J J です。今年29歳になりました。

原子力機構で契約の仕事をしております。

この会議に参加させていただいたきっかけとしては、昨年9月7日に JCO 臨界事故20年記念イベントが行われまして、そこで福島先生のお話を聞いて、構想日本の「自分ごと化会議」の構想は素晴らしいと心から思い、このくじが当たった瞬間に、実は奥さんに当たったのですが、私は、これは天からの贈り物だと非常に喜びました。

喜んだ理由としましては、熟議民主主義が本当にこの世の中にあるとはとても思えなかった。私は、真つ当なことを言えば言うほど、はじかれるということを死ぬほど経験してきましたので、原子力というやばいテーマについて、立場を超えて語れるという奇跡の場があること自体が大変喜ばしく、希望と感じております。あくまでも現実と理想の調和、そして、ほかの方の多様な意見、さらに、結果ではなく、過程に意味を見出すということはまさにシニカルな対極であり、私はそこに生きる意義を感じるくらいの喜びでございます。

長くなりまして恐縮ですが、皆様のご意見をぜひ拝聴いたしたく、よろしくお願いいたします。

以上です。

○伊藤 何か「自分ごと化会議」の意義をそのままお話しいただいたような感じですね。

ありがとうございます。

Kさん、お願いいたします。

○参加者K Kです。20歳です。

今は、リモート授業で、東海村に住んでいるのですが、東京の昭和女子大学の福祉社会学科で大学生をしています。

原発については、知識もほとんどないし、普段からあまり考えたこともなかったので、話についていけるかどうか不安だったのですが、勉強になるかなと思って参加しました。なので、至らない点が多々あると思うのですが、よろしくお願いします。

○伊藤 Lさん、お願いします。

○参加者L 白方から参りましたLです。どうぞよろしくお願いします。

実を言うと、祖父は水力、父は火力から原子力、主人は原子力から廃炉のところということで、身近に携わってきて、エネルギーの変遷を、家族を通して何となくかいま見ているような気がします。これからのエネルギーというところで、どういう変遷をたどるのかというのも、皆さんのご意見を伺いながら勉強したいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

○伊藤 Mさん、どうぞ。

○参加者M 舟石川から来ましたMです。

こちらに嫁いでから、主人初め、原子力に関係する方が私の周りにたくさんいたものですから、事故のとき、何もないときでも、そういった話題は周りにあったのですが、私自身、それについて深く考えることもなく、東海村にはそういうものがあって、それで私たちは生活しているのだなというぐらいの考えでいたのですけれども、いろいろな立場に立って、皆さんがどういうことを考えているか、それを自分の中で、これからいろいろ考えていけたらいいなと思って参加させていただきました。

実を言いますと、この会議に参加しようと思ってはがきを出したのではなくて、9月の講演会を聞きに行くようなつもりではがきを出して、後から間違いに気がついたのですが、私は、こういうことに参加することには消極的だったものですから、よい機会だと思って、一歩踏み出してみようと思って参加させていただきました。よろしくお願いします。

○伊藤 すばらしい間違いをありがとうございます。

Nさん、お願いします。

○参加者N 私は東京に住んでいたのですが、昭和40年に東海村に移転して、こちらの仕事に関わりながら住んでおります。

来た当時は本当に田舎町なのですね。何もなく、街灯もなく暗くて、手探りで歩くような、懐中電灯が必要な状態です。こんなに都会的なまちになるとは一つも思っていませんでした。これも、一つは原子力関係のあれもある程度あるのかなとも思いながら、現在は考え方がまるっきり180度変わって、原子力は本当にそんなにいいのかなという考えにもなってきましたし、周りの災害をいろいろ見ても、皆さん方の答弁で、「想定外

です」ということが必ず出てくるのですね。ですから、東海村は、村長さんがそういうことを言わないように、我々の意見を少しでも聞いていただければありがたいなと思いますし、1,000人の中から抽出されたせっかくの機会ですので、皆様のご意見を拝聴しながら、これから自分ごととして考えていきたいと思っています。

申し遅れましたが、駅東のNと申します。よろしくお願いします。

○伊藤 ありがとうございます。

Oさん。

○参加者O この近所から来ましたOと申します。

歯科衛生士をやっております。

私は、これに参加するのはこんな大ごとなものだと思っていなくて、きっかけも、「これが送られてきたよ」と言ったら、主人は機構勤めで、「10キロの米から1粒の確率で当たっているようなものだから、いいんじゃない。ちょっと行ってみたら？ この名前、見たことある人らしい」というのもあって、「じゃ、気軽に参加しちゃおうかな」と何も考えないで来たら、皆さん、そこそそすごい考えをお持ちで、意気込みもすごくて、「えっ、大丈夫かしら、私」というところが正直なところですが、ちょこちょこ参加していけばいいかな、お話にもついていければと思っています。よろしくお願いいたします。

○伊藤 Pさん、お願いします。

○参加者P 村松のPです。よろしくお願いします。

私がこのことに参加するのを決めたのは、単純に、何も考えず、おもしろそうだからという理由です。その後に自分で少し考えたりもしまして、原発に対する思いは、単純に怖いという恐怖心が多いのですが、この会議に参加して、自分は何に対して恐怖を感じているのかとか、では、何かあったときに、どういう行動をとればいいのかといった考えを持てればいいかなと思っています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

Qさん。

○参加者Q こんにちは。石神から来ましたQと申しまして、50代半ばです。

原子力関係の会社に勤めております。

参加するきっかけですが、原子力関係の会社に勤めているもので、日ごろ、ほかの意見を聞くことはあまりないので、皆さんの意見を聞きながら議論できれば、自分のためにもなるのかなと思って参加しました。どうぞよろしくお願いいたします。

○参加者R Rです。村松から来ました。緑ヶ丘と言ったらわかると思うのですが。

今回参加した理由は、私の夫が原発関係に勤めていまして、島根から福島に行って、つくばの研究都市に行って、ここに来たのですが、書類というか、手紙が送られてきて、当たったからというので、私も本当にこういうものだと思わなかったのです。来たら、「えっ、人がいっぱいいる。報道もいる」ということで、今、かなり気負っています。

勤めていた本人は今、天国のほうに単身赴任で行ってしまいまして、年が明けて6年になるのですが、仏壇に行って相談したら、「やってみりゃいいんじゃない」と。息子にも来る前に言ったら、「お母さん、何でそんなのに返事しちゃったの？」と。ENEOSのスタンドで仕事をしているのです。「お母さん、名字、珍しいよね。僕、名字を出しているよね。スタンドにお客が来るよね。名前を見られるよね。言われるんだ、僕」とかと言われて、「じゃ、やめたほうがいい？」と言ったら、肩を押されて、「頑張れ」と言われたので、これからよろしくお願いします。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

何名かの方が、今、Rさんがお話しされたように、まさかこんなことだと思っていなかったということで、これはどこの会議でも同じところがあるかと思います。繰り返しのなってしまいますが、ちょっとかしこまっているところはありますけれども、とにかくこの後、ざっくばらんに、自由な雰囲気です話をできるようにしていきたいと思っています。

あと、大きな特徴は、原子力機構とか、関係のところにお勤めの方、また、ご主人がお勤めの方が多い。これは松江のときと圧倒的に大きな違いがあるかなと思います。

今日は初回でもありますので、東海村村長以下、皆さん、おられますので、皆さんに自己紹介をしていただこうかと思っています。

村長からお願いします。

○村長 改めて紹介させていただきます。

今日は、すごくご参加いただきまして、本当にありがとうございます。

私は5回全部聞かせていただく予定です、皆さん、本当に忌憚のないご意見を願いたいします。よろしくお願いいたします。

○萩谷 副村長の萩谷でございます。

このような場に参加いただきまして、本当にありがとうございます。どのような意見が出るか、非常に楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

○佐藤 東海村役場村民生活部長の佐藤と申します。

本日は、ご参加いただき、本当にありがとうございます。これから皆さんからどんな意見が出るのか楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。

○川又 防災原子力安全課長の川又と申します。

この会議をこのような形で、東海村で始めさせていただいているということでございますが、何分にも手探りのところも多いものですから、事務局を務めてまいりますので、この会議も支援していきたいと思っておりますので、どういうことでも、言いたいことがあれば、事務局に伝えていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○平根 防災原子力安全課課長補佐の平根でございます。

本日、司会を務めさせていただいております。慣れない司会なものですから、お聞き苦しい点が多々あるかと思っています。2回目以降、司会をするかどうかは、今日、皆さんに判

断していただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○山路 皆さん、こんにちは。防災原子力安全課の山路と申します。

これから事務局として、皆様にいろいろ通知等、ご連絡をさせていただくことがあろうかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○伊藤 今の皆さんが東海村役場の方になります。

私もそうですが、今回、この「自分ごと化会議」に協力をしているのが、構想日本という東京のNPOになります。今、スタッフも来ております。

最初、挨拶をしました代表の加藤です。

スタッフです。この会全体の担当になりますが、永由裕大といいます。

○永由 永由です。よろしくお願いいたします。

○伊藤 同じく担当の秋元です。

○秋元 秋元と申します。よろしくお願いいたします。

○伊藤 もう既に皆さん、きっと聞かれていると思うのですが、この後、松江の方とつなぐのですが、お一人、福島浩彦さんをご紹介します。先ほどJさんの話の中にも名前が出ました。

先ほどご紹介しましたが、「自分ごと化会議in松江」は住民団体がやりました。その共同代表としてやられていました。もともと千葉県我孫子市というところで市長をされていて、その後、消費者庁長官という行政機関のトップをされていた方になります。構想日本の理事もしていただいています。

一言お願いします。

○福島 ご紹介いただきました福島です。どうぞよろしくお願いいたします。

これでは大学の肩書になっているのですが、今、伊藤さんからお話があったように、臨界事故のときは、常磐線でつながっている我孫子市の市長でしたし、3.11のときは消費者庁長官で、食の安全と放射能の問題に取り組みました。

これまでも何回か東海村にお邪魔していますし、これからもまたちょくちょく来させていただきますことになると思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、最初に一つだけ。松江でも谷口先生に基調講演いただいたのです。話を聞いた直後は、「うーん、結構難しいな」とみんな思っていたのですが、松江の場合、4回ですけども、4回話してみて、谷口先生が最初に言われたことがものすごく腑に落ちたのですね。特に、科学で問えるものはあっても、科学で答えが出せないものがあるのだというのが、4回話し合ってみて、みんなすごく腑に落ちたのです。だから、多分皆さんもそうなるのではないかなと思うので、伊藤さんが何回も言っていますが、笑いも含めて、ざっくばらんに、自由な話し合いができればいいなと思っています。よろしくお願いいたします。

○伊藤 ありがとうございます。

オンラインディスカッション「自分ごと化会議in松江での議論」

○伊藤 それでは、松江の皆さん、画面をオンにできますでしょうか。

ありがとうございます。

松江は、同じように、2,000人を抽出して、21名にご参加いただきました。そのうち、今日、3人の方にオンラインに入っていただいています。

では、松江の①さん、自己紹介をしていただきながら、松江の議論に参加しての感想とか、あれは2年前で、そこから2年間で、自分の心境や行動に変化があったかどうか、その辺、お話しただいてよろしいでしょうか。

○松江・参加者① 松江の①です。皆さん、初めまして、よろしくお願いいたします。

2年前に松江で「自分ごと化会議」に参加させていただきました。

松江には、もちろん皆さん、ご存知のように、原子力発電所がありまして、行政主催の説明会で、電力会社さんと行政さんが説明される説明会が時たま開かれるわけですが、どうしても官庁的な話ばかりで、反対派の人が来て、中国電力さんの悪口を言って終わりみたいなことで、なかなか議論という形にならないような一方的な説明会を憎性で開催みたいな話が多いもので、多くの市民は、余り関わらないでおこうというスタンスだったと思うのですね。

最初は、聞いたことがない団体から案内が来たので、どうかなと思ったのですが、参加してみて、特に、コーディネーターをやっておられた伊藤さんや永由さんに会議をうまくリードしていただいて、本当にみんな忌憚のない意見交換ができました。結論を出す会議ではなかったものですから、皆さん、一方的な話をそれぞれ言う中で、何となく方向性みたいなものが出て、非常に有意義で、私自身、これに参加してよかったなと思っております。

結論として、原子力に対して、いろいろな考えがあるのですが、個人として、とりあえず自然エネルギー、省エネルギーをもうちょっと頑張らないといけないということで、今、会社の建物の屋上に全部太陽光パネルをつけまして、今、会社の中で、順繰りに断熱改修をやっているという状況です。

そうした中で、今回、事務局が2回目の自然エネルギーの会議をやろうかということで、事務局のお手伝いをさせていただいております。

以上です。ありがとうございました。

○伊藤 「自分ごと化会議」が終わった後に、①さんの会社で、できるだけ自然エネルギーを使っていこうと変えていったということですか。

○松江・参加者① そうですね。終わった後というか、今年ですが、太陽光パネルを屋上に敷き詰めて、今、順繰りに部屋の断熱改修をやって、古い建物なのですがけれども、できれば自分の事務所にしたいなと思っています。

○伊藤 すごいですね。

①さんから、途中、お話がありましたが、送られてきたときに、「何だ、これ」と。団

体がちょっと怪しかったというお話があったかと思います。これの主催は行政ではなくて、福嶋さんが代表だった住民グループだったもので、封書の送り主が「自分ごと化会議in松江実行委員会」だった。みんな何か怪しいなと思うところもあったので、多分、行政と同じぐらいの応募率にならないであろう、3%とかにはならないであろうと。その当時、一番低かった自治体が1%だったので、1%を目指そうということで、2,000人に送って、20人ぐらい来てくれたらいいなと。これがぴったりと当たったというところかなと思います。

では、続いて、②さん、お願いします。

○松江・参加者② こんにちは。②です。

何を話したらいいのかと思いますが、2年前で遠い話なのですけれども、これまで原発について、誰かと話をするということにはなかったですし、自分の思いは胸に畳んでおくという感じで日々を過ごしていたのですが、「自分ごと化会議」の封書が来たときに、そのちょっと前に、テレビでも紹介があったかと思うのですけれども、「ああ、やっぱり来た。当たった」みたいな感じで、すごく嬉しく受け取ったのを思い出します。何をやるのかよく分からないけれども、興味津々、好奇心いっぱい、自分ごとというのはいいな、自分のこととして一緒に話せる場を作ってもらえるのはいいなと思って出ました。

さっき、コーディネーターの伊藤さんなどがよくやってくださったとおっしゃいましたが、普段の集まりの中では、声が大きい人、しつこい人、発言の場をたくさん持っている人、力、権力を持っている人の言い分が通ってしまうみたいなことを感じていて、「自分ごと化会議」の中では、本当に全員に話す機会が与えられるし、誰の意見も尊重されて、貶められたり、外されたり、一方的な議論などがないような、本当に安全で安心な場を作っていたなと思います。私は、特にここに感激して、参加させてもらっていました。

原発については、なかなか決められないというのがあるのですが、いろいろな意見を聞くことで、さっき、この説明のときに、自分でできることは何ですか、地域でできることは何ですかという問いかけがあって、その問いかけを本当に自分ごと化する、そのことについて、自分は何ができるのかなと考える機会をもらえたなと思います。高みの見物で、誰かがやってくれるのを待つというのではなくて、自分たちは何ができるのかということを考えさせられたなと思っています。

さっき①さんが、会社の屋根に太陽光パネルを張られたということで、そんなことは聞かなかったけれども、すごいと思います。

私は今まで、そういうことを人と余り話さなかった。それから、自分が思っていることについての発信をしてこなかったのだけれども、そういう問題を避けるのではなくて、自分が思っていることを出していこうということで、生活の中で少しずつ、いろいろな人に問いかけていく、話しかけていく機会を増やしてきたのはこの効果かなと、今聞いていて思いました。

ただ、私も第2期の「自分ごと化会議」の実行委員会に参加させてもらって、本当に和気あいあいとやれるので楽しいのですが、行政などにサポートしてもらえないで事業化し

てやるのは、とてもお金がかかる作業だなというのを身にしみて感じているところです。

以上です。ありがとうございます。

○伊藤 ②さん、ありがとうございました。

今、①さんも②さんも第2期という話をされていたかと思います。ちゃんと紹介をしていなかったのも、福島さんから、第2期ということで続いているという話をご紹介いただいていたのでしょうか。

○福島 第1期は原発をテーマにやったのです。これは続けることが大切だろうとみんな思ったので、第2期が今始まっています。まだ会議の本番は始まっていませんが、準備をしていて、市民がやるものですから、選挙管理委員会の17万人の有権者名簿から、手作業で75人飛びにピックアップして、2,000人を抽出するみたいな作業をずっとやって、案内を送って、今、参加者の返事が返ってきているところです。

だから、1期目と2期目と全く別の方が参加するのですが、私がすごいなと思っているのは、市民の実行委員会でやるものですから、1期目の参加者が2期目の実行委員会に入ってきて、今度、参加者ではなくて、開催する側で、その中心になってやっていただいているのです。今日の3人の方は、まさにその中心の方なのですが、そういったつながりができている。こちらは市民主催ではないので、ちょっと違う形になると思うのですが、そういうつながりが、きっと東海村でもできていくだろうなと思っています。

○伊藤 ありがとうございます。

最初にお話があったように、②さんが参加しようと思った動機は、何だか分からないけれども、おもしろそう。これは、さっきPさんがおっしゃったことと全く同じかなと思います。そこから第2期の実行委員にまでなられているので、そういう変化もあるのかなと感じております。

それでは、③さん、お願いします。

○松江・参加者③ ③です。よろしくお願いします。

夏に怪しげな封筒が来まして、本当はこのままごみ箱にと思ったのですが、ちょうど子どもの夏の甲子園が終わりまして、保護者としての応援も終わってしまい、燃え尽き症候群になっているところにこの封筒が来たものですから、開封して中身を見て、これはもしかして神様が与えてくれたチャンスなのかなと思いましたが、そのときは、原発という単語は余り意識していませんでした。

というのも、松江市にいますと、原発がいろいろなところで話題に出るのですが、子育てをして、家事をして、働きながらやっていると生活が手いっぱい、そこを考える余裕が余りなかったのです。

でも、子育てが終わりそうな区切りがあったときにちょうど舞い込んだお話だったので、これはやりがいのあることではないかと考えました。今までは、どうしても子ども中心とか家庭中心で、いろいろな物事を考えていたのですが、これからは自分で考えることも大事なのではないかと。自分ごとという意味はちょっとぴんとはきていなかったのですが、

まずは自分で考えてみることをしてみようと思って、この会議に参加したいなと思い、参加に丸をつけて出しました。

会議に参加してみて、自分の視野がちょっと広がったといいますか、いろいろな考えを持っていらっしゃる方がいらっしゃる。とても緊張して真っ白になっているのですが、いろいろな方の話を聞いて、自分は結構いい年なのですけれども、人生100年の時代になって、自分がまだまだ人間として成長できるこの機会を生かしていきたいという思いもあって、第2期の実行委員会も、微力ではございますが、お手伝いをさせていただいています。

第2期の自然エネルギーについても、実行委員会でやるからには、多少勉強をしないといけないというのがありますので、新聞を読んだり、メディアやインターネットでも情報を集めるようにしています。それももしかしたら自分ごと化なのかなということで、会議に参加することによって、自分ごと化するという習慣づけが自分の成長につながる。どうつながるのか、まだちょっと分からないのですが、そういう思いの中で、自分の生きがいになればなど。いろいろな意味で、これからの自分の考え方の参考になるのではないかと考えています。

皆さん、今日が初めてなので、緊張していらっしゃる、どうしていいのか分からない状態だと思うのですが、原発の話に関して言うと、私は今でもまだ答えが出ていません。いいのか悪いのかというのは、答えは出なくてもいいのではないかと、自分の中で考え続けられることが自分ごと化なのではないかと考えています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。今の最後の話は、今日の谷口先生の話そのものかなと。解は見つからなくても、自分で考え続けることが大切だということだったかなと思います。

今の話に関連してなのですが、3名とも、この会議に参加したことによって、いろいろな意識の変化があった。別に今、答えを言っていただく必要はないのですが、③さんは、原発について、今でも答えは見つかっていないけれども、自分なりにずっと考えているというお話があったと思うのですが、3人の中で、参加する前と、4回参加して今に至るまで、原発に関しての考え方が変わった方はいらっしゃいますか。

①さん、いかがですか。

○松江・参加者① あまり原発のことを考えないようにしていたのですね。お国が決めるので、それに肅々と従うということがあったのですが、そうではなくて、将来のエネルギー政策を考えた中で、みんなが考えないと、国が決めてくれるから、何とかなるのではないかなという時代ではなくなったのかなと、福島の後には思って、参加して、よりそういった考えになったなという感じですね。福島の前まで、あるいは参加するまでは、お国に任せて、言うままでいいのではないかなというスタンスでしたが、そういう意味では自分ごとになったかなと。それによって、③さんと一緒に、自分が意識するようになった。

結論は出ていないけれども、何十年か先には全く違う状況になるのではないかと考えて

いますので、それに向けて、今、自分ができることをやっていこうということだろうと思います。

○伊藤 ありがとうございます。今まであまり考えていなかったことを考えるようになってきたという意味での変化があったというところかなと思います。

②さんにも同じ質問で、原発についての捉え方や考え方の変化はありましたでしょうか。

○松江・参加者② 原発についての考え方はそんなには変わらないのですが、福島の後でもあるし、会議に出て、私が変わったことという、さっき言ったように、自分の中だけで、「原発は余りよくないな。もっと違うものがある。原発は嫌と言っても、最たる方法はまだ見つかっていないし、子や孫にこのツケをずっと背負わせていくのはな」ということをずっと考えていたのですが、そのことをもっと周りの人に話すとか、自分はこうよみたいなことを発信する機会があれば発信する。発信する機会があっても黙っているのはちょっとあれだったかなというのが変化かなと思います。

○伊藤 ありがとうございます。

特に松江のときには、何を考えなければいけないかということ、常に一つの目標としてやってきたという意味では、今、皆さんがお話をされたことは、会議の目指したところにつながったのかなと思います。

私から、島根の松江と東海村の違いを少し話しつつ、最後、福島さんから一言、総括的にお話ししたいなと思っているのですが、今日、アンケートが配られているかと思っています。このアンケートをご覧くださいよろしいですかね。

「事前アンケートまとめ」と書いてあるもので、1,000人の方に送ったときに、欠席のご連絡をいただいている方も、アンケートに答えてくれた人が結構いて、266件のアンケートと書いてあるかと思っています。

1つ目の設問は、東海第二発電所との関わりについてで、既に今日、20名の方にお話しいただいた中でも、働いているとか、身内が関わっているという方が多くいましたが、一番上のところで、自分が何かしら働いている、働いていたという方が、これはパーセントを書いていないのですが、10%ぐらい、家族が働いているという方が12%、友人が何かしらの企業で働いているという方が16%、関わりがないという方が6割ぐらいいることになります。

実は松江でも同じ設問をとって、松江の場合は、一番下の関わりがないという方が76%でした。東海村のほうが、関わっている割合が非常に強いと見てとれると思います。

もう一つ、2番で東海第二原発への関心度を聞いて、「非常に関心がある」が29.4%、「やや関心がある」が34%、合わせると63.4%になります。松江が同じ質問で54%ぐらいですので、関心度についても東海村のほうが高くなっている。

若干の違いがあるとすれば、松江も東海村も、まちの中に原発があるというのは一緒なのですが、松江は合併して、新しい松江市に原発があるという捉え方です。旧鹿島町に原発があったので、もともと人口の多い旧松江に住んでいる方たちからすると、原発のある

まちだという意識はもともとそんなになかったというところが、こういう関心度の違いにも出てきているのかなというのが、東海村と比較してみて感じるところかなと思います。

次のページの3番目をご覧ください。現時点での考えについてお聞きしています。「東海第二発電所は、生活に身近な存在である」ということで、「非常にそう思う」と「ややそう思う」を合わせると59%、約60%ぐらいですね。

「東海第二発電所の立地は、地域経済への影響が大きい」というのは、同じように2つ、「非常にそう思う」と「ややそう思う」で78から79%ぐらい。

ほとんど同じような設問を松江でもしているのですが、松江は島根原発で、地域経済への影響は大きいと思っている方が50%ぐらいだったので、この身近感、東海村が非常に大きくなっているのかなというところが見てとれるかなと思います。

原子力災害に対する安全対策について、分かっているという方は少ないですね。2つ合わせて大体32～33%。

その次、原子力災害時の住民の避難対策について、理解しているという方、「非常にそう思う」という方が9%、「ややそう思う」が25%、後ろの「あまりそうは思わない」「まったくそうは思わない」を合わせると41%ですので、まだまだ伝え切れていないというところがアンケートから見えているかなと思います。

こういった原発の議論に、住民の参加があったほうがいいと思っている方、「非常にそう思う」と「ややそう思う」で69%、約70%になっています。これも関心が非常に高いと言えるのかなというところかと思っています。

これはあくまで一つの参考です。これはあくまでもアンケートの中で聞いていることになりますので、この後、議論する中で、こういったことも議論するかもしれませんが、違う部分についての議論を進めていきたいと思っております。

3ページ目以降については、原発とは少し違うところのアンケートをとっています。これは参考までにご覧いただければと思います。

今、3名から、参加したときの感想とか、変化がいろいろ出てきているなと思うのですが、これから本当に話を進めるところではありますけれども、福島さんから、こちらにいる20名の方に何か伝えたいこととか、逆に、こうだったらいいなといったことがありましたらお願いします。

○福島 では、私の変化を話したらいいかなと思うのですが、私は、「脱原発の人たちと推進の人たち、両者がちゃんと話し合わないのだめなのではないですか。例えば、脱原発の人たちだけが集まって氣勢を上げていたって、脱原発にはなっていきませんよ。ちゃんと両方が話さないといけないですよ」とずっと言っていたのです。でも、それは半分間違っていたことに気づいたのです。

というのは、最近、そういう機会も少しずつできてきましたが、賛成と反対、両端の人が話すと、結局、意見を一方的に言い合って、平行線で終わるみたいなことが多いのですね。

私たちは無意識に、賛成、反対、無関心と3つに分けてしまうことが案外多いのですが、無関心の人もいますけれども、賛成の人と反対の人、それから、今、どちらの立場にも立っていないけれども、できるだけ正確な情報を得て、自分で考えたいのだという真ん中の人が実はたくさんいるのですね。真ん中の人というのは、真ん中という一つの立場ではなくて、真ん中の立場というのは、10人いたら10人の立場があると思うのですが、そういう真ん中の人が話すことこそ大事だなと。真ん中の人たちが中心になって話して、両端の人もそこに加わってきて、みんなで信頼関係を作って話せば、初めて社会的な合意が少し見えてくる。新しい景色も見えるのではないかなと思うようになったのですね。

みんなで信頼関係を持って、話し合っただけの結論なら、もしちょっと問題があったら、またみんなで知恵を出して修正していけないではないですか。でも、従来は、賛成と反対の人が闘って、どちらかが勝って結論が出るみたいなことが多い。どちらかが勝って、相手を負かせて出した結論は、後で問題がわかって、勝ったほうは問題を認めないと思うのですね。問題を認めてしまったら、自分が敗者になってしまうので。

だから、そういう闘いの結果の結論ではなくて、みんなで話し合っただけ、みんなで信頼関係を持って、合意をつくって、問題があれば、またみんなで知恵を出して修正していく。そういうやわらかい結論こそ、リスクの一番小さい社会をつくるのではないかなと。

「自分ごと化会議」に参加される方の中で、脱原発の強力な主張をされる方がいたっていいのです。絶対推進だという方がいたっていいのだけでも、多分、東海村も多くは真ん中で、いろいろな立場を持って、自分で考えてみたいという方だと思うのです。松江もそうでした。

松江でやってみて、私は、そういう場がむちゃくちゃ大切だな、やわらかい結論を出していけたら、私たちの社会はもうちょっと良くなるなという考え方に変わりました。考え方が少し変わったのですね。だから、ここの東海村の場も、そんな場になってもらえるととてもいいなと思います。

またやれることがあったら、皆さんと一緒にやっていきたいと思うので、よろしくお願いします。

○伊藤 ありがとうございます。

皆さんから、今、松江にいる方に何かご質問やご意見がありますか。

さすがに、いきなり質問というのは難しいかなと思うのですが。

よろしいですか。

では、今日、このために、ずっとオンラインで参加していただきました松江の3名の方に拍手をお願いいたします。ありがとうございました。

(拍手)

○伊藤 このまま聞いていただいてももちろん構いませんので。

あと、もう少し進めていきます。

全体協議

○伊藤 もう一巡だけするという話をしました。ここに書きました。

現時点で東海第二原発について感じていることを一言ずつお話しいただきたいと思います。既に一巡目のときにお話をいただいている部分もあるかと思うのですが、繰り返してもいいですし、違うことでも全然構いません。現時点で感じていることをお話しいただければと思っております。何となく1分ぐらいのイメージですね。よろしいですかね。

さっきAさんからいったので、今度、Rさんからでもいいですかね。よろしいですか。現時点で東海第二原発について感じていることについて、お話をいただきたいと思います。どうぞ。

○参加者R すみません。今まで、ずっとそばにあるのが普通だったので、特に考えていなかったです。

○伊藤 なるほど。ありがとうございます。

Qさん、どうぞ。

○参加者Q 私も以前、東海第二にいて、今、ちょっと離れてしまったのですが、地域貢献という意味ではないですけれども、地域のために、これからも、人の雇用といった面もありますので、今後も継続していただければと感じています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

Pさん、どうぞ。

○参加者P 私は、単純に怖いというイメージです。

○参加者O 正直な話、先ほど、子育てがとおっしゃっていた方がいるのですが、私も、手はかからないのですけれども、お金がかかる子どもがおりまして、上2人が特にお金がかかって、1人は今、中学生で、受験にかかるというところで、日々手いっぱいなので、今の時点では、考えるとかはないですね。ただ、身内に、そういう関係で働いているのがいるから、「うん、そういうのはあるんだよね。名前はよく知っている。聞いている」というのが現状です。

○伊藤 なるほど。さっきの3さんとすごく近いですね。

Nさん、いかがですか。

○参加者N氏 私は、さっきもちよっとお話ししましたが、過去は、原子力はいいなと感じていたのですけれども、最近はそうでもなくなってきたのですね。というのは、福島の実状を見たときに、黒いフレコンバッグがこれからもどんどんたまる。水の処理もどうするのか。そういうことを考えて、現時点で、安全対策ばかりやることを考えながらやっていますが、廃炉にした場合の措置、その計画までなされないで、作るだけ作っていいのかなと私は今感じています。

○伊藤 Mさん、どうぞ。

○参加者M 私も恐怖はあります。福島を見ていると、土地にも住めなくなってしまうとか、子孫のこととかいろいろ考えると、怖いとは思いますが、私も、ここに出るに当たって、分からなかったものですから、資料を見ましたら、先人の方は、ここが発展するためには必要だということで、ここに原発をとということだったようですので、これからも、恐怖だけではなくて、将来のことを考えて、それに代わるものとか、安全なものという形で継続されるのか、考えていかなければいけないのではないかなと思います。

○伊藤 ありがとうございます。

Lさん、どうぞ。

○参加者L 今の皆さんの原発の意見を踏まえた上で、今の原子力施設ですか、先日も、どこかの工事がどうかこうとかというニュースをチラッと見たのですが、現場で働いている職員の皆様は、本当に国の基準に従って一生懸命やってらっしゃるのだと思います。そういう意味で、賛成とか反対とかは抜きにして、職員の皆様に頑張って欲しいなと思います。

○伊藤 ありがとうございます。

Kさん、いかがですか。

○参加者K 生まれたときからずっとあったので、普段から自分で考えることもあまりないし、周りの人と話したこともないなと感じています。

○伊藤 今まで学校の授業で取り上げられたこととかありますか。

○参加者K 避難訓練とかで。

○伊藤 原子力についてみたいな授業は余り記憶ないですか。

○参加者K いや、あったかもしれないです。

○伊藤 分かりました。ありがとうございます。

Jさん、どうぞ。

○参加者J 私は子どもがおりますので、夏になると家が暑くて困るので、テラパークというPR館を避暑地がわりに利用させてもらって、とても役に立っていて、本当に助かっています。

第二原発さんに対しては、今の議論を聞くまでは、私は非常に無邪気に考えていました。第二原発があることで、私にとっては、テラパークは避暑地がわりになるし、建屋の構造を勉強すると非常に興味深くて、深い技術があつて、「プロジェクトX」並みにおもしろいではないかと勝手に思っていたのですが、今は、そういうロマンだけではなくて、その処理をどう考えるか、本当に考えなければいけないなと考えています。

午前中にPR館へ行ってきたのですが、確かに、その工事は非常に安全性を考えたものではあるのですが、同時に、廃炉へのビジョンを示したPR館になっているかというと、残念ながら、それはないと僕は感じます。勝手な主観ですが。

ということで、今、お話を聞いて、考え方がいろいろ変わってきていて、愉快だなと考えております。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

I さん、どうぞ。

○参加者 I 原発については、実際には、やはり怖いという気持ちはあります。ただ、原発があるおかげで、いろいろ恩恵を受けてきたのも事実なので、あるのは仕方ないなと容認はしています。

ただ、第二原発はかなり古いのですね。そこがちょっと怖くて、できれば最新式のリスクの低い、事故が起きにくい原発になるべく早く建て替えてほしいなと思っています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

H さん、どうぞ。

○参加者 H 東海第二原発ですが、技術的に要らないものは全部、簡単に捨てられてしまうと私は思っています。今、原発が、いろいろな批判がありながらも残っているのは、やはり必要であると。先ほどリスクの話がございましたが、いろいろなリスクがあって、なくなればいいのしょうけれども、これはやはり必要だから、こういう議論とか、こういう会議がされているのだらうなと私は思っているのです。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

G さん。

○参加者 G 新規制基準に対する対応工事等をやられるということで、これらは国の許可もきちんととってやられていると思っております。リスクはあるにしても、我々も、そういった内容をきちんと理解する必要があるのではないかと今考えております。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

どうぞ。

○参加者 F 先ほど申し上げたように、全然知識がない状態でお話するのですが、電気を使わないと生活していけないので、原発にかわる自然エネルギーなどがもっと確立してこないと、原子炉を使わないようにはならないと思うのですが、子どもたちの将来を考えると、そういう危険性が高いエネルギーは使わないように、だんだんしていってほしいなと思っています。

東海村に家を建てて、ローンもありますので、本当にずっと長く住んでいきたいので、安全だけは保障していただきたいと思っています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

E さん、いかがですか。

○参加者 E 原発に関しては、私は中立の立場だと考えてはいるのですが、ただ、考えな

くてはいけないのは、原発がなくなったら、電気をどうやって作っていくのかということ
で、先ほどの考えにつながってくるのです。現時点では、石炭火力といった火力発電がメ
ーンになってきているのかなと思うのですが、CO₂の排出問題に絡んでくるかなと思って
おります。

原発に賛成の方、反対の方、どちらもいらっしゃるかと思うのですが、どちらも正しい
意見であるからこそ、難しい問題になるなと思っております。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

どうぞ。

○参加者D 単純に、せっかく電気を作るものがあるのに、使っていないのはもったいな
いと思います。

あと、太陽光発電も進めてもらっていいです。

大事なのは、いろいろな手段を持っておく。多様化が必要なのではないかなと。1個だ
けに依存するのは危険でないかと思っています。

あと、先ほど話がありましたが、新しい安全な発電炉を作るべきと思っています。

あと、自分ごと化で考えますと、皆さん、選挙に行つて欲しい。自分の権利を行使して
欲しいと思っています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

どうぞ。

○参加者C 自分は、安全対策をしっかりしてもらった上で、再稼働してもらうのはいい
ことかなと思っているのです。

ほかの方の意見でも出ていたと思うのですが、安全対策ということはすごくうたわれる
のですけれども、将来世代への責任といったことを考えたときに、核のごみに関する議論
はあまりしてきていない。電力会社さんからあまり出てきていない現状だなと思っていて、
長く住み続けるとか、子どもの世代に負担を残さないということを考えたときに、もちろ
ん、原子炉の安全対策というところも一つなのですが、それだけではなくて、核のごみに
関する話も責任を持って考えていくことが必要だなと思っています。

○伊藤 ありがとうございます。

○参加者B 原子力については、福島事故は、インパクトが強い大きな事故だと思つて
いるのですが、せっかく人間がいろいろ考えてきたもので、車や飛行機などは、幾ら事故
を起こしても、安全を追求することによって続けてきているということを考えると、では、
原子力はいきなり廃止というのもどうかと思っているのです。安全を追求しながらも、原
子力は、CO₂削減の意味でいくと、結構重要なポイントだと思っていて、再生可能エネル
ギーを進めていく上で、原子力の比率を変えていくのもありなのではないかなと。あるも
のは使つて、徐々に、では、どう変えていこうかと考えるべきなのではないのかなと思つ

ております。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

Aさん。

○参加者A 私は、結論から言うと、今のところ、賛成でも反対でもないのかな。いや、少し賛成かなという感じですかね。

これは原子力がメーンの会議であると思うのですが、この先、東海村がどうあっていきたいのかとか、どういうまち、どういう村にしていきたいのかとか、そこでどういう子どもを育てていきたいのかとか、東海村のビジョンみたいな中で、原子力があつたほうがいいのか、ないほうがいいのかということが大事なのではないかなと私は思っています。

何人かの方のお話にもありましたが、原子力があることで恩恵もあることは確かだと思います。だからこれだけ豊かなインフラで、東海村はいいところだなと思っている方が多いと思うのです。なので、原子力が是か非かというよりも、東海村をどのようにしていきたいのかという中に、原子力がどのように組み込まれるべきなのかとか、要らないのかといった観点からの話のほうがいいのかなと漠然と思っています。

やや賛成というのは、メリットという、ちょっと冷たい言い方に聞こえる方もいらっしゃるかもしれませんが、今は、地域に貢献している部分のほうがちよっと大きいのではないかなと僕は思っています。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

ありがとうございました。今、皆さんから一言ずつ、現時点で感じていることをお話しいただきました。

あることが普通だったから、その先は今まであまり考えていなかったという方がいらっしゃいました。

あと、今のところ、地域に必要なのではないかな、交流もあるなど。

あと、最後にAさんからお話がありましたが、地域貢献度が大きいという観点はあるのではないかというご意見。

もう一つ、何人かありましたが、恐怖心、怖いと。

ただし、恩恵は受けてきたという方もいるし、村の発展は原発によるものだったと思うと。これは、怖いからなくしたほうがいいというストレートな話だけではなくて、あることの意味。これは、今日の谷口さんのリスクのトレードオフの話かもしれませんが、そういうところだったかなと。

さっきの3さんの話と近いところがありますが、日々の生活でいっぱいなので、まだ考えていないというところがある。

以前は必要だと思っていたが、3.11のこともあって、考えが変わってきた。

考えが変わった要因の一つとして、廃炉についてのご意見が結構多かったですが、廃炉

措置の検討がされていないのではないかなというご意見とか、廃炉に関して、もっと議論が必要ではないかというご意見。2人ぐらい、廃炉の話がありましたね。また出てくるかなと思います。

今日もおられました、現場の職員の方は大変だなといつも感じている。

学校で避難訓練はやってきている。それ以上、身近で話すことはあまりないかなと。

P R 館、テラパークを、暑さを避けるために避暑地がわりに使っていることがある。その中でいろいろ考えていくと、安全性については考えられている。ただ、廃炉については、まだまだ不安なところもあるのかなというご意見。

原発に関して、いろいろ批判がありながらも残っているということは、裏を返すと、必要ということにもつながってくるのではないかなというご意見。

今日の前半、話がありました新規制基準、原発事故があつて以降、新たな基準が設けられて、これは国の許可によるもので、そこは今クリアしている。こういうことは、住民としてもしっかり理解していく、考えていく必要があるだろうというところ。

自然エネルギーでできればいいのだけれども、現時点で、全て賄えるかどうかはわからない。ただ、将来のことを考えると、原発の比率を減らしていくことが必要。これはなぜかということ、安全ということ、優先度を一番高くして考えたほうがいいのではないかな。安全ということを考える先、では、どうするかということで、原発を減らしていこう、原発をなくしていこうという方もいらっしゃると思うし、リスクの低い最新のものに建て替えることによって、安全性を追求しようというご意見もあったかなと思います。ですので、その手段という意味では、少し違いが出てくるというところかなと思います。

原発がなくなったとき、さっきの自然エネルギーで全て賄えるかというところと近いかもしれませんが、代替策を考えたときに、これはまだもう少し考えなければいけないなと。

あわせて、賛成の人も反対の人も、考えていることは決して間違っていないからこそ、これは結論を出すのは難しいよなというところですね。

エネルギーの供給源について、どこかのタイミングでお話ししたほうがいいかもしれませんが、国としては、エネルギー基本計画の中で、2030年までに原子力は何%、再生可能エネルギーの中の風力は何%みたいなことを今作っている。その話の中で、エネルギーの供給源は多様であったほうがいいのではないかな、多様の中の一つとして、原子力があってもいいのではないかなと。

もう一つ、別な考え方で、意思を伝えるに当たって、選挙に行くことが必要だよなというところですね。

あと、車にしろ、飛行機にしろ、事故が起きたことによって、安全の追求を繰り返しながら安全性を高めてきた。一つのご意見として、CO₂削減という観点で考えたときには、もちろん安全性をずっと追求するのだけれども、やはり原子力は必要なのではないかというところ。これは先ほどもお話をしましたね。エネルギーミックス。何%、何%と決めていく。こういうものによって、原発の比率は下げないといけないかもしれないなというご

意見。

こういうことも考えながら、どういう東海村になりたいのか、どんな環境で住みたいのか、その中で、では、原子力はどのような位置づけになるかということも考えていく必要があるのではないかというのが、今、一通り皆さんに伺ったご意見かなと思います。

別に、今日、これで何か結論を出したわけではないのですが、このように一巡しただけで、僕自身、随分多様だなと思いました。

第2回に向けてですが、廃炉についてのご意見が結構あったので、第一のほうは、今、廃炉措置に向けていますが、どういう方向で何を考えているのかといった事実関係について、まず、お話をいただくほうがいいかなと感じています。これは役場の方に伺うのがいいのか、原電の方に来てもらうほうがいいのか、それは考えたいと思います。その辺の話をちょっとしたいと思っています。

あわせて、これは皆さんが良ければというのは変ですが、最初、少し大きい話をしておきたいなと。Aさんから最後にお話があった、どうありたいかという話もしつつ、その中で、では、電気はどのくらい必要なかなと。電気の中の原子力。電気の話だけではないですね。東海村に関して言えば、電気だけではなくて、たくさんあった。地域貢献や経済といったところもつながってくるので、その中で、では、今ある原子力はどのように考えたほうがいいのかというところも次回、話をしてみたいなと思っています。

いかがですかね。このタイミングで、何か知りたいことはありますか。1つは、廃炉について、ぜひ教えてもらおうと思います。ほかに知りたいことはありますか。

○参加者Ⅰ 話は戻るのですが、原子力規制委員会は、どれだけ信頼できる組織なのかというのが分からない。第二発電所は、申請を出して、許可がおりたということなのですが、原子力規制委員会はかなり小さな組織だということをネット情報で見たのですけれども、例えば、許可を出してしまえみたいな組織だと、この申請は何も意味がないではないですか。だから、もしそれを知っている人がいるのであれば、教えてもらいたいなと思います。

○伊藤 なるほど。谷口さんから。

○谷口 原子力規制委員会は決して小さい組織ではないですね。規制の虜と言われて、自分たちは判断する専門能力をしっかりと持たなければいけないと。福島事故以前は、事業者は実際の運転経験を持っていて、たくさんの情報を持っているという意味では非対称になっていたということから、自立する、独立するということで強化されたことは間違いないです。人数も大変多いと思います。ただ、独立性とか、歴史的な経緯、発足の経緯があるので、個人的に言うと、若干かたくなだなと思うところがあります。いろいろな意味で、自治体とかさまざまなところとの対話は、毅然と、ちゃんと対等にやるべきだと思うのですが、少しずつ努力されていることは分かります。審査能力、専門能力は少しずつついてきていると思います。ただ、それがどれくらい透明かといったことについては、まだ課題があるだろうと思っています。

誰かに聞いてみたらと思いますが、規制委員会に聞いてもだめでしょうから。誰に聞く

かというのはなかなか難しいところだなと思いますね。

○伊藤 1つは、規制委員会で簡単な概要集がよく出ているので、次回、それは皆さんにお伝えしたいなと。

全然関係ないですけども、僕は、原子力規制委員会がやっている事業の評価をする委員をやっているのです。だから、原子力規制庁の事業はよく知っている。政策論ではないのですがね。だから、ここは少し話ができるかなと思っています。

I さん、もし……。大丈夫ですか。

○参加者 I はい。ありがとうございました。

○伊藤 J さん、どうぞ。

○参加者 J ぜひ知りたいことがありまして、それは原子力マネーの分配。今、国から東海村に対する立地交付金があつて、それが、東海村の予算の中で、どれぐらいの割合を占めているのか。

さらに、原子力マネーは、立地交付金という形で村に直接配られるのもあれば、県に配られて、県から茨城県の各市町村に配られて、近隣の市町村のリスクとの均衡を考えながら配られていると思います。

この金の流れに加えて、例えば那珂市だったり、日立市だったり、ひたちなか市だったり、周辺の市町村はどう考えているのか、それをぜひ知りたい。例えば、この場で「自分ごと化会議」をして、村民を集めても、周辺の自治体の人たちの合意をどう得るかという他者性をどう担保するかという問題ですね。

周辺自治体の意向、お金の分配に加えまして、裁判所の権利は何なのでしょうね。ここで一生懸命議論しても、例えば、大津市で起こった裁判だったか、すみません、うろ覚えですが、規制委員会で許しても、裁判所の判決によって、再稼働が差し止められるといったことがあるのも、合意の調達、民意の意思決定に対するある種の挑戦と考えるのか、それとも正当な権利の行使と考えるのか、非常に疑問です。すみません。3点になってしまいました。

○伊藤 ありがとうございます。

1点目の、原子力に関して、国から立地対策交付金が出ている。これは国から茨城県を通じて東海村へ行く。要は、原発があることで、どれぐらいのお金が交付されているのかというのは、多分、事実関係で出てくると思いますので、少し調べてみたいと思います。

周辺自治体の考えは、東海村の中でも考えは多様な中で、周辺自治体だけでなく、当然、みんな多様なと思うのですね。

ただし、J さんがおっしゃった意味は、東海村だけで話して決められる問題ではないから、周辺の雰囲気も知っておきたいということかなと思います。今日、多分、周辺の方がおられるのではないかなと思いますので、少し話を進めながら、何かできないか考えたいと思います。

司法との関係はより広がってきて、なかなか東海村の話だけでなくるので、これは

議論するというよりは、実際、裁判が最近あったと思いますので、これは次回というよりは、5回の間の中で、せっかく規制委員会が意思決定したものを覆すのは、行政手続ということになってくるかなと思いますので、そこは何かしら発言できるようなことを考えたいと思います。

ほか、いかがでしょうか。

○参加者D 多分皆さん、今日来られて、いきなり何が知りたいですかと言われても、今みたいなすごくいい質問が出てくる人もいれば、何もいない人もいますので、できれば次回にまたそういうことを聞いていただければいいかなと思います。

○伊藤 継続して聞きたいと思います。

○参加者D よろしく願いいたします。

○伊藤 今日のアンケートの中でも、一応何か欲しい資料とか書いています。

Aさん、どうぞ。

○参加者A Jさんのお話とちょっとかぶるところがあるかもしれないのですが、具体的に国からの予算という話もあったのですけれども、東海村にどれぐらい経済効果があるのかなというのが知りたいです。原子力関係の雇用の人数がどれぐらいいらっしやって、今、定期点検で、13カ月点検で止まっているのと思うのですが、定期点検があったときとなかったときで、どれぐらい経済効果があったのか、なかったのかというのが知りたいです。では、原子力はやめましょうという会議ではないと思っているのですが、原子力反対といったときに、それと同じぐらいの何かがないと、我々のこの村の財政はきっと厳しくなるのではないかなと思って、具体的にどれぐらいのメリットがあるのか、雇用の関係で知りたいなと思っています。

○伊藤 経済効果とか、今まで出されたことがありますか。原発の関係では、いろいろな自治体でこの話が出てきていると思うのですが、今まで何か出したことはありますか。川又さん、どうですか。

○川又 今日、皆さんのところにお配りしている冊子の中に、「東海村の原子力」という冊子があるかと思うのですが、そちらの3ページとか4ページあたりを開いていただくと、財政的なものの記載がございます。

それから、さっき原発マネーとおっしゃった交付金関係の資料ですが、30ページ以降に、当初、昭和50年ころからの金額が載っている部分があります。

さっき交付金のお話があったと思うのですが、いろいろな施設がございまして、それにひもづくような感じで交付金をいただいているというのが32ページ。

それから、交付金は施設にひもづいている部分があるというところ、事業所というところをご説明したかと思うのですが、33ページを簡単に紹介させていただきますと、例えば、東京電力の常陸那珂火力発電所で、交付金がどのように使われているのかというのが事業名称というところに載っている。

その下を見ると、機構さんのリサイクル機器試験施設はこういう金額をいただいて、そ

れがどういう施設に使われているのかというのがわかるような資料は一応作っているということ。

これは村民の皆様に等しく配っているものですので、何かの折に見たことがあるかもしれませんが、とりあえずはこちらをご覧くださいできないかなと思います。

○伊藤 今日、この時間で、この冊子の数字を読み解くのは難しいことだと思いますので、次回、ご説明も少しいただきながら、場合によっては分かりやすくまとめることも含めて、また相談したいと思います。

多分、JさんとAさんの話はつながっていて、原発が立地していることによるメリットで、財政面というメリットもあるし、経済効果というメリットもある。こういったものはどのようになっているのかという話を次回、少ししたいと思います。

ほかに、現時点で知りたいなという方いらっしゃいますか。

大丈夫ですかね。

では、谷口さん、これまで話を伺っていて、ご意見、ご感想はいかがでしょう。

○谷口 いや、いいです。

○伊藤 福嶋さん、何かありますか。

○福嶋 いいです。

○伊藤 では、次回ですが、まず、具体的なところで、廃炉のことを一回考えようというところへいきたいと思います。今、廃炉に向けた研究はどうなっているかというところをご説明いただきたい。

そして、原発が今あることによるメリットは一体何なのだろうというのは、財政的観点、経済的な観点、いろいろあるかと思いますが、これについて、原電や役場の方から聞くというところをまずしたいと思います。

先ほど申し上げた、どのような東海村に住みたいか、どうありたいかというのは、これだけの話をするというよりは、廃炉の話とか、原発の効果といった話をしながら、常につながってくるテーマだと思います。どういう村にしたいかということは、私からたびたび振っていききたいなと思います。

これから通しの一つのテーマとして、どうありたいか、どういう村に住みたいかということを考える材料として、では、廃炉についてどうかとか、原発についてどうかというところについて、次回以降、議論していけたらなと思います。

さらに、デメリットとして何があるのかということももちろん考えていかなければいけないので、こちらについても考えていく。

デメリットを考える上では、これはこの後、ぜひ皆さんに考えてみていただきたいと思うのは、仮に100%、再生可能エネルギーで賄いますという環境ができた時に、原発は要らないと考えられるのか、いや、それでも、先ほどお話があった、エネルギーの多様性の一つの手段として、原発はあったほうがいいのかと考えられるのか。これは人によって違うのではないかなと思いますので、そういったところも、少し考えてみていただ

きたい。まさにそういうものが、結果的に、どのような村に住みたいかということにつながってくるのではないかなと思っています。

何となく、次回以降、話をするもののイメージがつかしましたか。別にそれにとらわれることなく、今日から次回に向けて、周りの人と話をしてみたり、感じたことがあったら、どんどんご発言いただきたい。ここからはみ出しても全然構いませんが、まずは、今日皆さんから一言いただいた中から、次の議論するテーマとして、こういったことをしたいかなと思っています。

ご質問のある方いらっしゃいますか。

大丈夫ですかね。

ありがとうございます。

では、福島さんから一言、いいですか。

○福島 今日、ずっとお聞きしていて、松江よりさらに、普段から原発を自分のものとして感じておられて、そこから始まるなという思いがしました。

だから、松江と状況が全く同じではなくて、少し違うとは思いますが、松江の参加者の人、傍聴の人、ほとんど全員が持った感想は、考え抜いた意見というわけでもなくて、「ここはちょっと分からないよね」とか、「ここは何かちょっと嫌な感じがするけど、どうなのだろう。私が勝手に思っているだけかな」みたいなことも含めて、原発について、自分が思っていることを、みんなの前で自由に安心して話せる場が松江に生まれるなんて思ってもいなかった、こんな場ができるなんて考えもしなかったということだったのですね。ここはそれ以上の場になるのではないかなという感じをひしひしと受けました。

以上です。

○伊藤 ありがとうございます。

時間がないのですが、私から最後に一言。

私は、コーディネーターという立場はもう百数十回やってきているのですが、皆さん、最初は何だかよく分からんなと思いながらも、それぞれ感じたことをこうやってご発言いただいていたいて、今日、多分、傍聴者の方も聞かれていて、こんなものは絶対だめ、こうなのだと断定的にお話をされた方は一人もいないのではないかなと思います。

それは、さっき福島さんがおっしゃっていた、どっちかだけではなくて、真ん中にいるからこそで、先ほど、賛成も反対も間違っていないからこそ、これは答えを出すのは難しいと。ただ、やはり考えていかなければいけない。我々はこの場で意思決定をするわけではなくて、いろいろなことを考えていく。

役場としても、最終的に、この場だけではなくて、いろいろな人たちの意見を踏まえた上で、意思決定していくことになりますので、そういう意味で、この後、迷いながら、迷いながら、議論も繰り返し同じところが出てくるかもしれませんが、そういうことをしながら、終わったときに、ああ、来てよかったなと思えるような場にできればなと思っております。

それでは、事務局にお渡ししたいと思います。

○司会 伊藤様，長時間にわたる会議の進行ありがとうございました。伊藤様に盛大な拍手をお送りください。

(拍手)

○司会 ありがとうございます。

最後に，事務局から2点ほど事務連絡がございます。

まず，1点目としましては，次回，第2回の「自分ごと化会議」でございますが，来年2月中の開催を予定しております。後日，改めて開催通知をお送りいたしますので，ご確認方，よろしくお願いいたします。

続いて，2点目でございます。

今，伊藤様からお話がありましたが，資料の中にアンケートを入れさせていただいております。こちらのお手元のアンケート用紙をあわせてご覧いただければと思います。参加者の皆様にお尋ねしたいことが幾つかございます。主なものをご紹介します，ご説明させていただきたいと思います。

両面になっておりますが，まず，設問の1から5までにつきましては，本日の会議に出席して思ったこと，感じたことなどを率直にお答えいただきたいと思います。

続きまして，問6でございます。裏面でございますが，こちらは会議の開催時間帯でございます。こちらを選択肢を列記させていただいております。基本的には，皆様が比較のお集まりやすいのかなというお時間，都合が付きやすいのではないかなということで，土曜日，日曜日等としたいと考えておりますが，午前中とか，午後とか，ご希望のほどをお聞かせいただければと思っております。

続いて，問7でございます。この会議の公開方法でございます。これはライブ配信を行うかどうかということでございますが，会議の公開方法として，本日は会場への傍聴席設置のほか，後日，会議録概要のホームページ掲載を予定させていただいておりますけれども，これは次回以降も継続させていただきたいと考えております。

この会議の動向は非常に注目されているところでございまして，インターネットを使っのリアルタイムでの中継ができないかという声が聞かれております。本日は，このような形の放送はしておりません。予定していなかったところではあったのですが，このような声が聞かれているということで，皆様のご意見をお伺いしたいということで設問を設けさせていただいております。

最後に，問8，会議の名称でございます。参加者の皆様と一緒に，皆様の意向を踏まえて，会議の名称を決めてまいりたいと考えております。候補案をあらかじめ列記しておりますので，いずれかをお選びいただければと思っております。

なお，アンケート中の問いに対する答えとして，選択肢に該当するものがないようなことがございましたら，「その他」などを選んでいただきまして，その理由などを書いていただいたり，空白をご利用いただければと思っております。

以上、さまざまご説明させていただきましたが、ご不明な点などございましたら、ご質問を受けたいと思うのですが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日、たくさんの方に傍聴していただいておりますが、傍聴者の皆様にも2点ほどご連絡をさせていただきたいと思います。

まず、お配りしました資料の中にセットしております傍聴者用アンケートにつきまして、ご協力を賜れればと存じております。会場の出口で回収させていただく予定でございますので、何とぞご協力をお願いいたします。

続いて、2点目でございます。

本日、会議の冒頭、山路からも注意事項でご説明させていただきました。こちらの資料2のほうで書かせていただいておりますが、こちらの注意事項で触れさせていただいておりますWEB配信等なさらぬよう、秩序ある行動、ご配慮を切にお願いいたします。

閉 会

○司会 それでは、予定の時間となりましたので、第1回目の「自分ごと化会議」は、以上をもちまして、閉会とさせていただきたいと思います。

会場の皆様におかれましては、長時間にわたり、会議の運営にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。